

地域福祉に関するアンケート調査報告書

(対象者:民生委員・児童委員)

令和2年11月
鹿 児 島 市

目次

第1章 調査の概要	1
1. 調査の目的	1
2. 調査方法	1
(1) 調査対象者	1
(2) 調査内容	1
(3) 調査時期	1
(4) 調査方法	1
(5) 分析方法	1
(6) 集計上の注意	1
第2章 調査結果	2
1. 担当地区	2
2. 担当地域の福祉活動の状況	3
3. 担当地域で充実している福祉活動	4
4. 担当地域で不足している福祉活動	5
5. 担当地域の福祉活動を充実していくために必要なこと	6
6. 地域の福祉活動を充実するために連携強化すべき団体等	7
7. 悩みや相談を受けることが多い相手	8
8. 悩みや相談の件数	9
9. 福祉に関する相談の内容	10
10. 福祉に関する相談で解決困難なもの	11
11. 福祉に関する相談を受けた場合の相談相手	12
12. 市の福祉施策で今後力を入れるべきもの	13
13. 福祉全般についての意見（自由回答）	14
第3章 調査票	32

第1章 調査の概要

1. 調査の目的

本市の地域福祉に関する民生委員・児童委員の意識を把握し、第5期鹿児島市地域福祉計画策定の協議に活用することを目的とする。

2. 調査方法

(1) 調査対象者

民生委員・児童委員（定数：1,067人）

(2) 調査内容

主な設問は、地域の福祉活動の現状や課題、地域の方からの相談の実態などである。

(3) 調査時期

令和2年9月～10月

(4) 調査方法

市民生委員児童委員協議会に、調査票の配布・回収をご協力いただいた。

(5) 分析方法

回答者の地区の属性と各設問への回答をクロス集計し、地域福祉に関する各地区の傾向、特徴を検討した。

(6) 集計上の注意

- 集計結果は百分率で算出し、小数点第二位を四捨五入しているため、合計が100%にならない場合がある。
- 複数回答の場合は、度数の合計は有効回答者の実数より高く、構成比の合計は100%を超える場合がある。

第2章 調査結果

1. 担当地区

問1 あなたが担当している地区は、どちらですか。(○は1つだけ)											
1	本庁（中央）	2	谷山	3	伊敷	4	吉野	5	桜島		
6	吉田	7	喜入	8	松元	9	郡山				

「中央地区」が約5割、「谷山地区」が約2割、「伊敷地区」が約1割となっている。

表1 担当地区の集計

	サ ン プ ル 数	中 央 地 区	谷 山 地 区	伊 敷 地 区	吉 野 地 区	桜 島 地 区	吉 田 地 区	喜 入 地 区	松 元 地 区	郡 山 地 区	無 回 答
(上段:人、下段:%)											
合計	1,013	496	227	93	64	25	21	33	32	22	0
	100.0%	49.0%	22.4%	9.2%	6.3%	2.5%	2.1%	3.3%	3.2%	2.2%	0.0%

% : 各属性で最も回答が多い

2. 担当地域の福祉活動の状況

問2 あなたが担当している地域の福祉活動は、充実していると思いますか。(○は1つだけ)

- 1 とても充実している 2 おおむね充実している 3 あまり充実していない
4 まったく充実していない 5 どちらともいえない

市全体では、「おおむね充実している」が約8割となっている。

地区別に見ると、吉田地区において「あまり充実していない」が他の地区と比べて多くなっている。

表2 担当地域の福祉活動の状況と担当地区とのクロス集計

		サンプル数	とても充実している	おおむね充実している	あまり充実していない	まったく充実していない	どちらともいえない	無回答
(上段:人、下段:%)								
合計		1,013	37	781	90	3	81	21
		100.0%	3.7%	77.1%	8.9%	0.3%	8.0%	2.1%
地区別	中央地区	496	26	398	30	0	33	9
		100.0%	5.2%	80.2%	6.0%	0.0%	6.7%	1.8%
	谷山地区	227	7	165	23	3	22	7
		100.0%	3.1%	72.7%	10.1%	1.3%	9.7%	3.1%
	伊敷地区	93	1	65	13	0	12	2
		100.0%	1.1%	69.9%	14.0%	0.0%	12.9%	2.2%
	吉野地区	64	1	46	8	0	7	2
		100.0%	1.6%	71.9%	12.5%	0.0%	10.9%	3.1%
	桜島地区	25	0	22	2	0	1	0
		100.0%	0.0%	88.0%	8.0%	0.0%	4.0%	0.0%
	吉田地区	21	0	14	6	0	1	0
		100.0%	0.0%	66.7%	28.6%	0.0%	4.8%	0.0%
	喜入地区	33	0	27	2	0	3	1
		100.0%	0.0%	81.8%	6.1%	0.0%	9.1%	3.0%
	松元地区	32	1	24	5	0	2	0
		100.0%	3.1%	75.0%	15.6%	0.0%	6.3%	0.0%
	郡山地区	22	1	20	1	0	0	0
		100.0%	4.5%	90.9%	4.5%	0.0%	0.0%	0.0%

% : 各属性で最も回答が多い

3. 担当地域で充実している福祉活動

問3 あなたが担当している地域で充実している福祉活動は何ですか。(複数選択可)

1 住民同士の交流	2 子育て支援	3 高齢者福祉
4 介護予防	5 健康づくり	6 障害者福祉
7 認知症の方への支援	8 ひとり親家庭への支援	9 引きこもりの方への支援
10 生活困窮者への支援	11 青少年の健全育成	12 災害対策
13 防犯対策	14 ボランティア活動	15 分からない
16 その他(具体的に		)

市全体では、6割を超える人が「高齢者福祉」、約5割が「子育て支援」、約4割が「住民同士の交流」、「健康づくり」となっている。

地区別に見ると、「高齢者福祉」については、吉野地区、郡山地区は7割を超えているが、伊敷地区は約5割となっている。「子育て支援」については、桜島地区、吉田地区、喜入地区、郡山地区が他の地区より少なくなっている。

表3 担当地域で充実している福祉活動と担当地区とのクロス集計

		サンプル数	住民 同士の交流	子育 て支援	高齢 者福祉	介護 予防	健康 づくり	障害 者福祉	認知 症の方への支援	ひとり 親家庭への支援	引きこ もりの方への支援	生活困 窮者への支援	青少年 の健全 育成	災害 対策	防犯 対策	ボラン ティア活動	分から ない	その他	無回 答
(上段:人、下段:%)																			
合計		1,013	415	532	642	163	377	76	94	52	27	82	195	182	220	233	65	16	4
地区別	中央地区	496	200	276	318	92	207	33	45	24	10	42	113	102	132	105	31	6	3
		—	41.0%	52.5%	63.4%	16.1%	37.2%	7.5%	9.3%	5.1%	2.7%	8.1%	19.2%	18.0%	21.7%	23.0%	6.4%	1.6%	0.4%
	谷山地区	227	82	135	141	37	72	18	27	17	9	19	38	39	30	51	20	5	1
		—	40.3%	55.6%	64.1%	18.5%	41.7%	6.7%	9.1%	4.8%	2.0%	8.5%	22.8%	20.6%	26.6%	21.2%	6.3%	1.2%	0.6%
	伊敷地区	93	40	39	50	10	25	4	3	2	4	6	14	12	23	19	6	2	0
		—	43.0%	41.9%	53.8%	10.8%	26.9%	4.3%	3.2%	2.2%	4.3%	6.5%	15.1%	12.9%	24.7%	20.4%	6.5%	2.2%	0.0%
	吉野地区	64	23	38	46	3	26	4	4	0	1	3	13	7	15	14	4	0	0
		—	35.9%	59.4%	71.9%	4.7%	40.6%	6.3%	6.3%	0.0%	1.6%	4.7%	20.3%	10.9%	23.4%	21.9%	6.3%	0.0%	0.0%
	桜島地区	25	15	5	14	3	7	3	1	2	0	0	2	7	4	8	0	0	0
		—	60.0%	20.0%	56.0%	12.0%	28.0%	12.0%	4.0%	8.0%	0.0%	0.0%	8.0%	28.0%	16.0%	32.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	吉田地区	21	10	6	13	2	7	3	1	1	2	0	0	2	3	7	2	1	0
		—	47.6%	28.6%	61.9%	9.5%	33.3%	14.3%	4.8%	4.8%	9.5%	0.0%	0.0%	9.5%	14.3%	33.3%	9.5%	4.8%	0.0%
	喜入地区	33	17	9	22	6	13	7	7	3	0	8	6	7	7	14	0	0	0
		—	51.5%	27.3%	66.7%	18.2%	39.4%	21.2%	21.2%	9.1%	0.0%	24.2%	18.2%	21.2%	21.2%	42.4%	0.0%	0.0%	0.0%
	松元地区	32	16	19	21	7	14	4	3	1	1	3	5	3	4	10	2	1	0
		—	50.0%	59.4%	65.6%	21.9%	43.8%	12.5%	9.4%	3.1%	3.1%	9.4%	15.6%	9.4%	12.5%	31.3%	6.3%	3.1%	0.0%
	郡山地区	22	12	5	17	3	6	0	3	2	0	1	4	3	2	5	0	1	0
		—	54.5%	22.7%	77.3%	13.6%	27.3%	0.0%	13.6%	9.1%	0.0%	4.5%	18.2%	13.6%	9.1%	22.7%	0.0%	4.5%	0.0%

% : 各属性で最も回答が多い

4. 担当地域で不足している福祉活動

問4 あなたが担当している地域で不足している（今後、充実していく必要がある）福祉活動は何ですか。（複数選択可）

- | | | |
|--------------|--------------|---------------|
| 1 住民同士の交流 | 2 子育て支援 | 3 高齢者福祉 |
| 4 介護予防 | 5 健康づくり | 6 障害者福祉 |
| 7 認知症の方への支援 | 8 ひとり親家庭への支援 | 9 引きこもりの方への支援 |
| 10 生活困窮者への支援 | 11 青少年の健全育成 | 12 災害対策 |
| 13 防犯対策 | 14 ボランティア活動 | 15 分からない |
| 16 その他（具体的に | | ） |

市全体では、「住民同士の交流」が3割を超えており最も高く、次いで「災害対策」、「引きこもりの方への支援」、「認知症の方への支援」が2割を超えている。

地区別に見ると、「住民同士の交流」については、谷山地区と松元地区において4割を超えている一方、桜島地区、吉田地区、喜入地区では2割程度となっている。

表4 担当地域で不足している福祉活動と担当地区とのクロス集計

		サンプル数	住民 同士の交流	子育 て支援	高齢 者福祉	介護 予防	健康 づくり	障害 者福祉	認知 症の方への支援	ひとり 親家庭への支援	引きこ もりの方への支援	生活困 窮者への支援	青少年 の健全育成	災害 対策	防犯 対策	ボラン ティア活動	分から ない	その他	無回 答
(上段:人、下段:%)																			
合計		1,013	345	90	151	131	135	134	205	168	252	102	82	277	138	124	92	19	25
		－	34.1%	8.9%	14.9%	12.9%	13.3%	13.2%	20.2%	16.6%	24.9%	10.1%	8.1%	27.3%	13.6%	12.2%	9.1%	1.9%	2.5%
地区別	中央地区	496	163	47	62	57	58	68	101	90	129	45	42	138	64	57	42	13	14
		－	32.9%	9.5%	12.5%	11.5%	11.7%	13.7%	20.4%	18.1%	26.0%	9.1%	8.5%	27.8%	12.9%	11.5%	8.5%	2.6%	2.8%
	谷山地区	227	94	19	42	32	24	28	36	39	57	30	17	64	36	27	22	2	4
		－	41.4%	8.4%	18.5%	14.1%	10.6%	12.3%	15.9%	17.2%	25.1%	13.2%	7.5%	28.2%	15.9%	11.9%	9.7%	0.9%	1.8%
	伊敷地区	93	30	7	17	19	18	11	24	9	20	7	8	26	11	18	14	1	1
		－	32.3%	7.5%	18.3%	20.4%	19.4%	11.8%	25.8%	9.7%	21.5%	7.5%	8.6%	28.0%	11.8%	19.4%	15.1%	1.1%	1.1%
	吉野地区	64	21	4	10	5	9	11	20	14	15	6	3	15	8	4	5	1	1
		－	32.8%	6.3%	15.6%	7.8%	14.1%	17.2%	31.3%	21.9%	23.4%	9.4%	4.7%	23.4%	12.5%	6.3%	7.8%	1.6%	1.6%
	桜島地区	25	6	2	3	4	1	2	6	2	6	4	1	5	1	2	3	0	3
		－	24.0%	8.0%	12.0%	16.0%	4.0%	8.0%	24.0%	8.0%	24.0%	16.0%	4.0%	20.0%	4.0%	8.0%	12.0%	0.0%	12.0%
	吉田地区	21	5	3	4	5	3	5	6	4	5	2	1	6	4	2	1	1	0
		－	23.8%	14.3%	19.0%	23.8%	14.3%	23.8%	28.6%	19.0%	23.8%	9.5%	4.8%	28.6%	19.0%	9.5%	4.8%	4.8%	0.0%
	喜入地区	33	7	4	2	2	10	2	6	3	8	4	5	12	5	5	2	0	1
		－	21.2%	12.1%	6.1%	6.1%	30.3%	6.1%	18.2%	9.1%	24.2%	12.1%	15.2%	36.4%	15.2%	15.2%	6.1%	0.0%	3.0%
	松元地区	32	13	2	8	3	5	1	5	4	8	3	2	8	6	6	2	1	1
		－	40.6%	6.3%	25.0%	9.4%	15.6%	3.1%	15.6%	12.5%	25.0%	9.4%	6.3%	25.0%	18.8%	18.8%	6.3%	3.1%	3.1%
郡山地区	22	6	2	3	4	7	6	1	3	4	1	3	3	3	3	1	0	0	
	－	27.3%	9.1%	13.6%	18.2%	31.8%	27.3%	4.5%	13.6%	18.2%	4.5%	13.6%	13.6%	13.6%	13.6%	4.5%	0.0%	0.0%	

% : 各属性で最も回答が多い

5. 担当地域の福祉活動を充実していくために必要なこと

問5 あなたが担当している地域の福祉活動について、今後、充実していくためには、何が必要だと思いますか。(複数選択可)

- | | |
|-----------------|----------------------|
| 1 地域での人のつながり | 2 地域のリーダー |
| 3 福祉に関する相談窓口の充実 | 4 福祉に関する研修・人材育成 |
| 5 福祉に関する情報提供の充実 | 6 地域の福祉活動を支援する専門員の充実 |
| 7 関係団体等のネットワーク | 8 活動のための経済的支援 |
| 9 分からない | |
| 10 その他(具体的に |) |

市全体では、「地域での人のつながり」が6割を超えており最も高く、次いで「地域のリーダー」、「福祉に関する情報提供の充実」、「福祉に関する研修・人材育成」、「地域の福祉活動を支援する専門員の充実」が約3割となっている。

地区別に見ると、「地域での人のつながり」については傾向に大きな差異は見られないが、「地域のリーダー」については、吉田地区、松元地区では他の地区と比べて多くなっている一方、桜島地区では少なくなっている。

表5 担当地域の福祉活動を充実していくために必要なことと担当地区とのクロス集計

		サンプル数	地域での人のつながり	地域のリーダー	福祉に関する相談窓口の充実	福祉に関する研修・人材育成	福祉に関する情報提供の充実	地域の福祉活動を支援する専門員の充実	関係団体等のネットワーク	活動のための経済的支援	分からない	その他	無回答
(上段:人、下段:%)													
合計		1,013	647	322	176	277	289	277	250	155	29	18	28
		-	63.9%	31.8%	17.4%	27.3%	28.5%	27.3%	24.7%	15.3%	2.9%	1.8%	2.8%
地区別	中央地区	496	301	158	90	132	138	129	133	59	14	7	11
		-	60.7%	31.9%	18.1%	26.6%	27.8%	26.0%	26.8%	11.9%	2.8%	1.4%	2.2%
	谷山地区	227	161	71	39	64	75	68	56	38	5	5	5
		-	70.9%	31.3%	17.2%	28.2%	33.0%	30.0%	24.7%	16.7%	2.2%	2.2%	2.2%
	伊敷地区	93	63	29	15	23	19	24	20	19	1	3	3
		-	67.7%	31.2%	16.1%	24.7%	20.4%	25.8%	21.5%	20.4%	1.1%	3.2%	3.2%
	吉野地区	64	37	17	13	21	23	25	13	10	5	0	2
		-	57.8%	26.6%	20.3%	32.8%	35.9%	39.1%	20.3%	15.6%	7.8%	0.0%	3.1%
	桜島地区	25	15	4	3	7	5	4	2	5	1	1	3
		-	60.0%	16.0%	12.0%	28.0%	20.0%	16.0%	8.0%	20.0%	4.0%	4.0%	12.0%
	吉田地区	21	14	9	4	9	7	8	4	8	0	0	0
		-	66.7%	42.9%	19.0%	42.9%	33.3%	38.1%	19.0%	38.1%	0.0%	0.0%	0.0%
	喜入地区	33	19	10	4	9	9	8	11	6	2	1	0
		-	57.6%	30.3%	12.1%	27.3%	27.3%	24.2%	33.3%	18.2%	6.1%	3.0%	0.0%
	松元地区	32	23	18	3	6	5	7	8	8	1	1	1
		-	71.9%	56.3%	9.4%	18.8%	15.6%	21.9%	25.0%	25.0%	3.1%	3.1%	3.1%
	郡山地区	22	14	6	5	6	8	4	3	2	0	0	3
		-	63.6%	27.3%	22.7%	27.3%	36.4%	18.2%	13.6%	9.1%	0.0%	0.0%	13.6%

% : 各属性で最も回答が多い

6. 地域の福祉活動を充実するために連携強化すべき団体等

問6 あなたは、地域の福祉活動を充実するために、どの団体等の連携を強化していく必要があると思いますか。(複数選択可)

- | | |
|----------------------|-----------------------|
| 1 民生委員・児童委員 | 2 町内会・コミュニティ協議会等の地域団体 |
| 3 校区社会福祉協議会 | 4 鹿児島市社会福祉協議会 |
| 5 行政の関係課 | 6 地域福祉館 |
| 7 地域包括支援センター | 8 病院・福祉関連施設 |
| 9 地域福祉支援員 | 10 学校 |
| 11 地域のボランティア団体 | 12 地域の企業・商店街 |
| 13 地域の特定非営利活動法人（NPO） | |
| 14 その他（具体的に | ） |

市全体では、「町内会・コミュニティ協議会等の地域団体」が約7割で最も高く、次いで「地域包括支援センター」が約5割、「民生委員・児童委員」が約4割、「校区社会福祉協議会」、「行政の関係課」が約3割となっている。

地区別に見ると、「町内会・コミュニティ協議会等の地域団体」については、谷山地区、吉野地区、吉田地区、松元地区で7割を超えている。「地域包括支援センター」については、郡山地区で8割程度、喜入地区で7割程度と多くなっている。

表6 地域の福祉活動を充実するために連携強化すべき団体等と担当地区とのクロス集計

		サンプル数	民生委員・児童委員	町内会・コミュニティ協議会等の地域団体	校区社会福祉協議会	鹿児島市社会福祉協議会	行政の関係課	地域福祉館	地域包括支援センター	病院・福祉関連施設	地域福祉支援員	学校	地域のボランティア団体	地域の企業・商店街	（NPO）地域の特定非営利活動法人	その他	無回答
(上段:人、下段:%)																	
合計		1,013	406	692	343	194	328	140	537	145	164	166	150	87	31	12	31
		－	40.1%	68.3%	33.9%	19.2%	32.4%	13.8%	53.0%	14.3%	16.2%	16.4%	14.8%	8.6%	3.1%	1.2%	3.1%
地区別	中央地区	496	195	334	147	95	145	77	258	83	74	90	77	53	20	7	13
		－	39.3%	67.3%	29.6%	19.2%	29.2%	15.5%	52.0%	16.7%	14.9%	18.1%	15.5%	10.7%	4.0%	1.4%	2.6%
	谷山地区	227	89	163	88	51	85	36	124	22	34	41	36	18	1	3	9
		－	39.2%	71.8%	38.8%	22.5%	37.4%	15.9%	54.6%	9.7%	15.0%	18.1%	15.9%	7.9%	0.4%	1.3%	4.0%
	伊敷地区	93	34	63	27	9	24	14	40	10	17	13	9	6	3	2	4
		－	36.6%	67.7%	29.0%	9.7%	25.8%	15.1%	43.0%	10.8%	18.3%	14.0%	9.7%	6.5%	3.2%	2.2%	4.3%
	吉野地区	64	22	46	17	8	23	7	40	13	9	5	7	4	2	0	1
		－	34.4%	71.9%	26.6%	12.5%	35.9%	10.9%	62.5%	20.3%	14.1%	7.8%	10.9%	6.3%	3.1%	0.0%	1.6%
	桜島地区	25	18	14	12	5	8	0	12	2	4	2	3	0	0	0	2
		－	72.0%	56.0%	48.0%	20.0%	32.0%	0.0%	48.0%	8.0%	16.0%	8.0%	12.0%	0.0%	0.0%	0.0%	8.0%
	吉田地区	21	7	16	10	7	9	1	9	4	4	2	3	2	2	0	0
		－	33.3%	76.2%	47.6%	33.3%	42.9%	4.8%	42.9%	19.0%	19.0%	9.5%	14.3%	9.5%	9.5%	0.0%	0.0%
	喜入地区	33	12	23	20	10	13	2	23	6	9	7	8	3	1	0	0
		－	36.4%	69.7%	60.6%	30.3%	39.4%	6.1%	69.7%	18.2%	27.3%	21.2%	24.2%	9.1%	3.0%	0.0%	0.0%
	松元地区	32	18	24	16	6	16	1	14	4	7	3	4	1	0	0	1
		－	56.3%	75.0%	50.0%	18.8%	50.0%	3.1%	43.8%	12.5%	21.9%	9.4%	12.5%	3.1%	0.0%	0.0%	3.1%
	郡山地区	22	11	9	6	3	5	2	17	1	6	3	3	0	2	0	1
		－	50.0%	40.9%	27.3%	13.6%	22.7%	9.1%	77.3%	4.5%	27.3%	13.6%	13.6%	0.0%	9.1%	0.0%	4.5%

% :各属性で最も回答が多い

7. 悩みや相談を受けることが多い相手

問7 あなたは、地域の方が抱えている悩みや相談を、誰（どこ）から受けることが多いですか。（複数選択可）

- | | |
|-----------------------|---------------|
| 1 本人・本人の家族 | 2 本人の友人・知人 |
| 3 町内会・コミュニティ協議会等の地域団体 | 4 近所の人 |
| 5 校区社会福祉協議会 | 6 学校 |
| 7 行政の関係課 | 8 鹿児島市社会福祉協議会 |
| 9 地域福祉館 | 10 地域包括支援センター |
| 11 地域福祉支援員 | 12 病院・福祉関連施設 |
| 13 その他（具体的に | ） |

市全体では、「本人・本人の家族」が7割を超えており最も高く、次いで「近所の人」が5割を超えている。

地区別に見ると、「本人・本人の家族」については傾向に大きな差異は見られないが、「近所の人」について、喜入地区、郡山地区が7割程度と多くなっている。

表7 悩みや相談を受けることが多い相手と担当地区とのクロス集計

		サンプル数	本人・本人の家族	本人の友人・知人	町内会・コミュニティ協議会等の地域団体	近所の人	校区社会福祉協議会	学校	行政の関係課	鹿児島市社会福祉協議会	地域福祉館	地域包括支援センター	地域福祉支援員	病院・福祉関連施設	その他	無回答
(上段：人、下段：%)																
合計		1,013	744	281	184	541	31	94	127	11	13	279	24	30	24	21
		－	73.4%	27.7%	18.2%	53.4%	3.1%	9.3%	12.5%	1.1%	1.3%	27.5%	2.4%	3.0%	2.4%	2.1%
地区別	中央地区	496	364	135	93	254	10	51	67	6	8	131	7	8	9	14
		－	73.4%	27.2%	18.8%	51.2%	2.0%	10.3%	13.5%	1.2%	1.6%	26.4%	1.4%	1.6%	1.8%	2.8%
	谷山地区	227	163	56	37	122	7	24	32	4	2	82	6	8	6	2
		－	71.8%	24.7%	16.3%	53.7%	3.1%	10.6%	14.1%	1.8%	0.9%	36.1%	2.6%	3.5%	2.6%	0.9%
	伊敷地区	93	73	20	21	49	2	4	6	0	1	16	0	0	3	2
		－	78.5%	21.5%	22.6%	52.7%	2.2%	4.3%	6.5%	0.0%	1.1%	17.2%	0.0%	0.0%	3.2%	2.2%
	吉野地区	64	51	19	9	38	2	2	9	1	0	18	1	7	2	0
		－	79.7%	29.7%	14.1%	59.4%	3.1%	3.1%	14.1%	1.6%	0.0%	28.1%	1.6%	10.9%	3.1%	0.0%
	桜島地区	25	18	9	4	12	0	3	0	0	0	1	1	0	0	2
		－	72.0%	36.0%	16.0%	48.0%	0.0%	12.0%	0.0%	0.0%	0.0%	4.0%	4.0%	0.0%	0.0%	8.0%
	吉田地区	21	15	4	4	9	5	3	4	0	0	9	1	0	1	0
		－	71.4%	19.0%	19.0%	42.9%	23.8%	14.3%	19.0%	0.0%	0.0%	42.9%	4.8%	0.0%	4.8%	0.0%
	喜入地区	33	25	15	5	23	4	2	4	0	1	12	4	3	2	1
		－	75.8%	45.5%	15.2%	69.7%	12.1%	6.1%	12.1%	0.0%	3.0%	36.4%	12.1%	9.1%	6.1%	3.0%
	松元地区	32	21	13	7	18	1	3	4	0	0	6	2	4	1	0
		－	65.6%	40.6%	21.9%	56.3%	3.1%	9.4%	12.5%	0.0%	0.0%	18.8%	6.3%	12.5%	3.1%	0.0%
	郡山地区	22	14	10	4	16	0	2	1	0	1	4	2	0	0	0
		－	63.6%	45.5%	18.2%	72.7%	0.0%	9.1%	4.5%	0.0%	4.5%	18.2%	9.1%	0.0%	0.0%	0.0%

% : 各属性で最も回答が多い

8. 悩みや相談の件数

問 8 あなたは、地域の方からの悩みや相談を、何件ぐらい受けていますか。(○は1つだけ)

- 1 平均して1か月に10件未満 2 平均して1か月に10件～29件
3 平均して1か月に30件～49件 4 平均して1か月に50件以上

市全体では、「平均して1か月に10件未満」が9割を超えている。

地区別に見ても、その傾向に大きな差異は見られない。

表 8 悩みや相談の件数と担当地区とのクロス集計

		サ ン プ ル 数	平 均 し て 1 か 月 に 1 0 件 未 満	2 平 均 し て 1 か 月 に 1 0 件 ～	4 平 均 し て 1 か 月 に 3 0 件 ～	平 均 し て 1 か 月 に 5 0 件 以 上	無 回 答
(上段:人、下段:%)							
合計		1,013	955	24	0	0	34
		100.0%	94.3%	2.4%	0.0%	0.0%	3.4%
地 区 別	中央地区	496	465	16	0	0	15
		100.0%	93.8%	3.2%	0.0%	0.0%	3.0%
	谷山地区	227	218	4	0	0	5
		100.0%	96.0%	1.8%	0.0%	0.0%	2.2%
	伊敷地区	93	86	2	0	0	5
		100.0%	92.5%	2.2%	0.0%	0.0%	5.4%
	吉野地区	64	64	0	0	0	0
		100.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	桜島地区	25	21	0	0	0	4
		100.0%	84.0%	0.0%	0.0%	0.0%	16.0%
	吉田地区	21	19	0	0	0	2
		100.0%	90.5%	0.0%	0.0%	0.0%	9.5%
	喜入地区	33	30	1	0	0	2
		100.0%	90.9%	3.0%	0.0%	0.0%	6.1%
	松元地区	32	31	1	0	0	0
		100.0%	96.9%	3.1%	0.0%	0.0%	0.0%
	郡山地区	22	21	0	0	0	1
		100.0%	95.5%	0.0%	0.0%	0.0%	4.5%
			% : 各属性で最も回答が多い				

9. 福祉に関する相談の内容

問9 あなたが地域の方から受ける福祉に関する相談で、多いものは何ですか。(複数選択可)

- | | | |
|--------------|---------------|-------------|
| 1 子育て支援 | 2 高齢者福祉 | 3 介護予防 |
| 4 健康づくり | 5 障害者福祉 | 6 認知症の方への支援 |
| 7 ひとり親家庭への支援 | 8 引きこもりの方への支援 | 9 生活困窮者への支援 |
| 10 青少年の健全育成 | 11 災害対策 | 12 防犯対策 |
| 13 ボランティア活動 | 14 児童虐待 | |
| 15 その他(具体的に | |) |

市全体では、「高齢者福祉」が7割を超え最も高く、次いで「認知症の方への支援」が約2割となっている。

地区別に見ると、「高齢者福祉」について、吉野地区、吉田地区、松元地区で8割を超えている。また「認知症の方への支援」について、吉野地区、喜入地区が他の地区と比べて多くなっている。

表9 福祉に関する相談の内容と担当地区とのクロス集計

		サ ン プ ル 数	子 育 て 支 援	高 齢 者 福 祉	介 護 予 防	健 康 づ く り	障 害 者 福 祉	認 知 症 の 方 へ の 支 援	ひ と り 親 家 庭 へ の 支 援	引 き こ も り の 方 へ の 支 援	生 活 困 窮 者 へ の 支 援	青 少 年 の 健 全 育 成	災 害 対 策	防 犯 対 策	ボ ラ ン テ ィ ア 活 動	児 童 虐 待	そ の 他	無 回 答	
(上段:人、下段:%)																			
合 計		1,013	138	757	177	121	83	221	83	68	135	45	128	42	28	27	35	32	
		－	13.6%	74.7%	17.5%	11.9%	8.2%	21.8%	8.2%	6.7%	13.3%	4.4%	12.6%	4.1%	2.8%	2.7%	3.5%	3.2%	
地 区 別	中央地区	496	73	363	91	71	40	111	40	29	74	19	61	21	16	10	22	11	
		－	14.7%	73.2%	18.3%	14.3%	8.1%	22.4%	8.1%	5.8%	14.9%	3.8%	12.3%	4.2%	3.2%	2.0%	4.4%	2.2%	
	谷山地区	227	37	169	33	26	15	51	20	25	26	18	25	3	6	12	8	6	
		－	16.3%	74.4%	14.5%	11.5%	6.6%	22.5%	8.8%	11.0%	11.5%	7.9%	11.0%	1.3%	2.6%	5.3%	3.5%	2.6%	
	伊敷地区	93	12	74	17	6	5	17	3	5	8	3	18	5	2	1	3	3	
		－	12.9%	79.6%	18.3%	6.5%	5.4%	18.3%	3.2%	5.4%	8.6%	3.2%	19.4%	5.4%	2.2%	1.1%	3.2%	3.2%	
	吉野地区	64	7	53	9	1	10	17	8	2	10	2	6	6	1	1	2	2	
		－	10.9%	82.8%	14.1%	1.6%	15.6%	26.6%	12.5%	3.1%	15.6%	3.1%	9.4%	9.4%	1.6%	1.6%	3.1%	3.1%	
	桜島地区	25	2	15	7	4	1	3	2	0	3	1	2	3	1	0	0	4	
		－	8.0%	60.0%	28.0%	16.0%	4.0%	12.0%	8.0%	0.0%	12.0%	4.0%	8.0%	12.0%	4.0%	0.0%	0.0%	16.0%	
	吉田地区	21	2	17	3	2	2	3	2	1	4	0	2	1	0	1	0	2	
		－	9.5%	81.0%	14.3%	9.5%	9.5%	14.3%	9.5%	4.8%	19.0%	0.0%	9.5%	4.8%	0.0%	4.8%	0.0%	9.5%	
	喜入地区	33	2	24	5	6	4	11	2	2	4	1	8	3	1	1	0	2	
		－	6.1%	72.7%	15.2%	18.2%	12.1%	33.3%	6.1%	6.1%	12.1%	3.0%	24.2%	9.1%	3.0%	3.0%	0.0%	6.1%	
	松元地区	32	2	26	8	3	2	4	3	4	4	1	3	0	0	1	0	0	
		－	6.3%	81.3%	25.0%	9.4%	6.3%	12.5%	9.4%	12.5%	12.5%	3.1%	9.4%	0.0%	0.0%	3.1%	0.0%	0.0%	
	郡山地区	22	1	16	4	2	4	4	4	3	0	2	0	3	0	1	0	0	2
		－	4.5%	72.7%	18.2%	9.1%	18.2%	18.2%	13.6%	0.0%	9.1%	0.0%	13.6%	0.0%	4.5%	0.0%	0.0%	0.0%	9.1%

% : 各属性で最も回答が多い

10. 福祉に関する相談で解決困難なもの

問 10 あなたが地域の方から受ける福祉に関する相談で、解決するのが難しいものは何ですか。(複数選択可)

- | | | |
|--------------|---------------|-------------|
| 1 子育て支援 | 2 高齢者福祉 | 3 介護予防 |
| 4 健康づくり | 5 障害者福祉 | 6 認知症の方への支援 |
| 7 ひとり親家庭への支援 | 8 引きこもりの方への支援 | 9 生活困窮者への支援 |
| 10 青少年の健全育成 | 11 災害対策 | 12 防犯対策 |
| 13 ボランティア活動 | 14 児童虐待 | |
| 15 その他(具体的に | |) |

市全体では、「引きこもりの方への支援」と「認知症の方への支援」が約3割で、次いで「生活困窮者への支援」、「高齢者福祉」が約2割となっている。

地区別に見ると、「引きこもりの方への支援」について、中央地区、谷山地区、吉野地区で3割を超えている。また、「高齢者福祉」について、松元地区、郡山地区で3割を超えているほか、「子育て支援」について、松元地区が他の地区と比べて多くなっている。

表 10 福祉に関する相談で解決困難なものと担当地区とのクロス集計

		サンプル数	子育て支援	高齢者福祉	介護予防	健康づくり	障害者福祉	認知症の方への支援	ひとり親家庭への支援	引きこもりの方への支援	生活困窮者への支援	青少年の健全育成	災害対策	防犯対策	ボランティア活動	児童虐待	その他	無回答
(上段:人、下段:%)																		
合計		1,013	63	200	60	17	149	286	107	319	221	35	140	43	8	130	43	110
地区別	中央地区	496	33	77	24	9	78	139	55	163	125	14	65	20	5	68	22	52
		-	6.7%	15.5%	4.8%	1.8%	15.7%	28.0%	11.1%	32.9%	25.2%	2.8%	13.1%	4.0%	1.0%	13.7%	4.4%	10.5%
	谷山地区	227	13	54	11	2	25	63	25	74	37	12	29	8	0	34	11	27
		-	5.7%	23.8%	4.8%	0.9%	11.0%	27.8%	11.0%	32.6%	16.3%	5.3%	12.8%	3.5%	0.0%	15.0%	4.8%	11.9%
	伊敷地区	93	4	26	8	3	9	28	4	25	22	2	17	2	1	8	5	10
		-	4.3%	28.0%	8.6%	3.2%	9.7%	30.1%	4.3%	26.9%	23.7%	2.2%	18.3%	2.2%	1.1%	8.6%	5.4%	10.8%
	吉野地区	64	3	10	6	0	12	23	9	23	11	2	11	7	0	8	4	6
		-	4.7%	15.6%	9.4%	0.0%	18.8%	35.9%	14.1%	35.9%	17.2%	3.1%	17.2%	10.9%	0.0%	12.5%	6.3%	9.4%
	桜島地区	25	0	6	2	1	4	6	3	5	5	0	0	1	0	1	0	6
		-	0.0%	24.0%	8.0%	4.0%	16.0%	24.0%	12.0%	20.0%	20.0%	0.0%	0.0%	4.0%	0.0%	4.0%	0.0%	24.0%
	吉田地区	21	0	4	3	1	4	4	3	6	4	2	3	2	0	3	0	1
		-	0.0%	19.0%	14.3%	4.8%	19.0%	19.0%	14.3%	28.6%	19.0%	9.5%	14.3%	9.5%	0.0%	14.3%	0.0%	4.8%
	喜入地区	33	3	4	0	0	3	11	3	8	6	3	9	2	1	2	1	5
		-	9.1%	12.1%	0.0%	0.0%	9.1%	33.3%	9.1%	24.2%	18.2%	9.1%	27.3%	6.1%	3.0%	6.1%	3.0%	15.2%
	松元地区	32	5	11	4	1	6	6	3	9	7	0	2	0	0	4	0	2
		-	15.6%	34.4%	12.5%	3.1%	18.8%	18.8%	9.4%	28.1%	21.9%	0.0%	6.3%	0.0%	0.0%	12.5%	0.0%	6.3%
	郡山地区	22	2	8	2	0	8	6	2	6	4	0	4	1	1	2	0	1
		-	9.1%	36.4%	9.1%	0.0%	36.4%	27.3%	9.1%	27.3%	18.2%	0.0%	18.2%	4.5%	4.5%	9.1%	0.0%	4.5%

% : 各属性で最も回答が多い

11. 福祉に関する相談を受けた場合の相談相手

問 11 あなたは、地域の方から福祉に関する相談を受けた時、誰に（どこに）相談することが多いですか。（複数選択可）

- | | |
|-----------------------|---------------|
| 1 家族・親類 | 2 友人・知人 |
| 3 町内会・コミュニティ協議会等の地域団体 | 4 近所の人 |
| 5 校区社会福祉協議会 | 6 学校 |
| 7 行政の関係課 | 8 鹿児島市社会福祉協議会 |
| 9 地域福祉館 | 10 地域包括支援センター |
| 11 地域福祉支援員 | 12 病院・福祉関連施設 |
| 13 その他（具体的に | ） |

市全体では、「地域包括支援センター」が約7割で最も多く、次いで「行政の関係課」が約5割、「町内会・コミュニティ協議会等の地域団体」が2割強となっている。

地区別に見ると、「地域包括支援センター」について、松元地区、郡山地区で8割を超えている。また、「町内会・コミュニティ協議会等の地域団体」について、喜入地区で3割を超えている。

表 11 福祉に関する相談を受けた場合の相談相手と担当地区とのクロス集計

		サンプル数	家族・親類	友人・知人	町内会・コミュニティ協議会	近所の人	校区社会福祉協議会	学校	行政の関係課	鹿児島市社会福祉協議会	地域福祉館	地域包括支援センター	地域福祉支援員	病院・福祉関連施設	その他	無回答
(上段:人、下段:%)																
合計		1,013	81	69	249	38	109	36	484	66	11	712	56	46	123	28
地区別	中央地区	－	8.0%	6.8%	24.6%	3.8%	10.8%	3.6%	47.8%	6.5%	1.1%	70.3%	5.5%	4.5%	12.1%	2.8%
		496	36	35	120	15	48	18	233	39	3	334	26	24	80	14
	谷山地区	－	7.3%	7.1%	24.2%	3.0%	9.7%	3.6%	47.0%	7.9%	0.6%	67.3%	5.2%	4.8%	16.1%	2.8%
		227	15	19	51	10	19	8	121	7	4	162	14	11	23	4
	伊敷地区	－	6.6%	8.4%	22.5%	4.4%	8.4%	3.5%	53.3%	3.1%	1.8%	71.4%	6.2%	4.8%	10.1%	1.8%
		93	11	3	27	4	10	1	36	2	1	68	2	3	6	3
	吉野地区	－	11.8%	3.2%	29.0%	4.3%	10.8%	1.1%	38.7%	2.2%	1.1%	73.1%	2.2%	3.2%	6.5%	3.2%
		64	7	8	17	3	6	2	34	5	2	49	5	4	6	1
	桜島地区	－	10.9%	12.5%	26.6%	4.7%	9.4%	3.1%	53.1%	7.8%	3.1%	76.6%	7.8%	6.3%	9.4%	1.6%
		25	0	2	7	0	5	2	11	2	0	16	0	0	1	3
	吉田地区	－	0.0%	8.0%	28.0%	0.0%	20.0%	8.0%	44.0%	8.0%	0.0%	64.0%	0.0%	0.0%	4.0%	12.0%
		21	2	2	4	0	4	1	11	3	0	11	0	0	3	1
	喜入地区	－	9.5%	9.5%	19.0%	0.0%	19.0%	4.8%	52.4%	14.3%	0.0%	52.4%	0.0%	0.0%	14.3%	4.8%
		33	6	0	11	4	7	0	10	4	0	26	3	3	1	1
	松元地区	－	18.2%	0.0%	33.3%	12.1%	21.2%	0.0%	30.3%	12.1%	0.0%	78.8%	9.1%	9.1%	3.0%	3.0%
		32	2	0	8	1	9	2	18	4	0	27	5	1	1	0
	郡山地区	－	6.3%	0.0%	25.0%	3.1%	28.1%	6.3%	56.3%	12.5%	0.0%	84.4%	15.6%	3.1%	3.1%	0.0%
		22	2	0	4	1	1	2	10	0	1	19	1	0	2	1

% : 各属性で最も回答が多い

12. 市の福祉施策で今後力を入れるべきもの

問 12 あなたは、鹿児島市の福祉施策について、今後、何に力を入れるべきとお考えですか。

(複数選択可)

- | | |
|-----------------|--------------------|
| 1 福祉に関する相談窓口の充実 | 2 福祉に関する情報提供や案内の充実 |
| 3 地域で支えあう仕組みづくり | 4 福祉に関する研修・人材育成 |
| 5 福祉施設の充実 | 6 福祉教育 |
| 7 子育て支援 | 8 高齢者福祉 |
| 9 介護予防 | 10 健康づくり |
| 11 障害者福祉 | 12 認知症の方への支援 |
| 13 ひとり親家庭への支援 | 14 引きこもりの方への支援 |
| 15 生活困窮者への支援 | 16 ボランティア活動への支援 |
| 17 保健・医療サービスの充実 | |
| 18 その他（具体的に |) |

市全体では、「地域で支えあう仕組みづくり」が約5割で最も多くなっている。次いで「福祉に関する情報提供や案内の充実」が約4割、「福祉に関する相談窓口の充実」、「高齢者福祉」が約3割となっている。

地区別に見ると、「地域で支えあう仕組みづくり」について、松元地区で6割、吉野地区、桜島地区で5割を超え、他の地区と比べて多くなっている。

表 12 市の福祉施策で今後力を入れるべきものと担当地区とのクロス集計

	サンプル数	福祉に関する相談窓口の充実	福祉に関する情報提供や案内の充実	地域で支えあう仕組みづくり	福祉に関する研修・人材育成	福祉施設の充実	福祉教育	子育て支援	高齢者福祉	介護予防	健康づくり	障害者福祉	認知症の方への支援	ひとり親家庭への支援	引きこもりの方への支援	生活困窮者への支援	ボランティア活動への支援	保健・医療サービスの充実	その他	無回答
(上段:人、下段:%)																				
合計	1,013	320	383	481	241	160	68	145	283	133	138	111	199	141	167	128	85	106	23	27
	—	31.6%	37.8%	47.5%	23.8%	15.8%	6.7%	14.3%	27.9%	13.1%	13.6%	11.0%	19.6%	13.9%	16.5%	12.6%	8.4%	10.5%	2.3%	2.7%
中央地区	496	170	185	238	112	94	33	65	124	64	65	57	97	73	85	60	47	47	15	10
	—	34.3%	37.3%	48.0%	22.6%	19.0%	6.7%	13.1%	25.0%	12.9%	13.1%	11.5%	19.6%	14.7%	17.1%	12.1%	9.5%	9.5%	3.0%	2.0%
谷山地区	227	69	97	106	51	26	15	46	72	30	26	21	46	32	44	35	20	28	5	5
	—	30.4%	42.7%	46.7%	22.5%	11.5%	6.6%	20.3%	31.7%	13.2%	11.5%	9.3%	20.3%	14.1%	19.4%	15.4%	8.8%	12.3%	2.2%	2.2%
伊敷地区	93	29	30	41	24	13	7	13	28	12	19	11	17	9	12	9	8	10	1	4
	—	31.2%	32.3%	44.1%	25.8%	14.0%	7.5%	14.0%	30.1%	12.9%	20.4%	11.8%	18.3%	9.7%	12.9%	9.7%	8.6%	10.8%	1.1%	4.3%
吉野地区	64	15	24	34	18	10	6	6	22	8	6	5	11	8	7	8	3	7	1	1
	—	23.4%	37.5%	53.1%	28.1%	15.6%	9.4%	9.4%	34.4%	12.5%	9.4%	7.8%	17.2%	12.5%	10.9%	12.5%	4.7%	10.9%	1.6%	1.6%
桜島地区	25	7	6	13	6	2	0	3	4	3	3	1	6	3	2	3	1	2	0	3
	—	28.0%	24.0%	52.0%	24.0%	8.0%	0.0%	12.0%	16.0%	12.0%	12.0%	4.0%	24.0%	12.0%	8.0%	12.0%	4.0%	8.0%	0.0%	12.0%
吉田地区	21	9	9	7	7	2	0	1	5	3	3	2	7	2	1	1	0	1	0	0
	—	42.9%	42.9%	33.3%	33.3%	9.5%	0.0%	4.8%	23.8%	14.3%	14.3%	9.5%	33.3%	9.5%	4.8%	4.8%	0.0%	4.8%	0.0%	0.0%
喜入地区	33	7	12	13	8	2	4	7	7	5	6	5	9	5	9	6	5	4	0	1
	—	21.2%	36.4%	39.4%	24.2%	6.1%	12.1%	21.2%	21.2%	15.2%	18.2%	15.2%	27.3%	15.2%	27.3%	18.2%	15.2%	12.1%	0.0%	3.0%
松元地区	32	9	13	21	11	7	1	3	10	4	7	5	2	4	5	4	1	7	1	2
	—	28.1%	40.6%	65.6%	34.4%	21.9%	3.1%	9.4%	31.3%	12.5%	21.9%	15.6%	6.3%	12.5%	15.6%	12.5%	3.1%	21.9%	3.1%	6.3%
郡山地区	22	5	7	8	4	4	2	1	11	4	3	4	4	5	2	2	0	0	0	1
	—	22.7%	31.8%	36.4%	18.2%	18.2%	9.1%	4.5%	50.0%	18.2%	13.6%	18.2%	18.2%	22.7%	9.1%	9.1%	0.0%	0.0%	0.0%	4.5%

% : 各属性で最も回答が多い

13. 福祉全般についての意見(自由回答)

問 13 その他、福祉全般について、ご意見がありましたらお書きください。

例) 新型コロナウイルス感染症が収束しない中、今後の地域福祉活動(交流)のあり方等

①地域について

■中央地区

- コロナ問題で思うように訪問できず、不安な日々を送っています。地域活動として少しずつお達者クラブも再開されて、お互いほっとしています。地域での人の繋がりの大切さを感じています。地域福祉館の機能をレベルアップして福祉の専門員を置き、地域の人に介護のことや子育てのことなど福祉に関する情報発信や相談の場になればいいと思います。
- 地域によって違うと思いますが、買い物が大変。走る魚屋さんなどの店もありますが、お店が交流の場になっているので、コンビニのイートインみたいな感じでサロン、交流の場を作れないかと思案しています。
- 地域住民同士の繋がり、構築のために何かいい具体的な事柄を教えてください。
- 校区内、町内会の行事等がほとんどなくなりましたが、できる範囲での予防をしながら活動を再開していかないと、住民、地域の繋がりがますますなくなるので、少しずつ進んでいかなければいけないと思います。
- ポスト訪問と電話訪問をしています。外で会えた時は、できるだけ離れて話をさせていただいています。
- 行事等の参加は限られた知り合いばかりです。今まで不参加の方々にどのように声掛けをしたら参加してもらえるかと思っています。
- セキュリティマンションが多いため、交流が少ないのでどうにか改善方法を教えて欲しい。コロナウィルスの収束を待ち、今までの町内のイベント等の火を消さないように、次に繋げるようにできる地域活動の進め方が求められていると思います。
- 電話などで近況を伺う。3密を避けた交流。
- マンションが多くなり、福祉活動がしにくくなっている。広報紙を配布しても中々見てもらえない。
- 訪問の際、ドアのインターホーンにお互いの顔が見えたら良いが、見えないのは不信感を持ち、信頼関係のない冷たい社会を構成して、孤立化を招いていると思う。
- 事情が異なる各々の家庭に対して、どこまでが過干渉になるのか迷います。常に情報のアンテナを張っていることが重要だと思います。
- 地域交流が希薄化している中、誰が何を求めているか分からないので(情報があまり入ってこない)、的確な支援ができていない。
- 坂道が多く、高齢者で足や腰を痛めている人が多いので、集合場所に行く交通手段があれば参加者が増すと思います。
- 地域での役割、地域住民の協力の在り方について広報し、住民に理解促進を図る。担当地域の住民票等の提供など、個人情報の厳守が前提であるが、市からの提供を求めたい。
- 地域の方々が気軽に立ち寄り、交流できるコミュニティ広場があると、情報がより詳しく分かるのではと思います。
- 地域の横の繋がりが大切だと思います。今後の活動はよほど知恵を絞っていかないと一つの気持ちにはなれない気がしています。
- コロナで休んでいたふれあい会食を注意しながら9月から始めました。参加者に大変喜ばれ

ました。地域に交流できる場所を大小でもあちこちに作ってもらえたらうれしいです。

- 市営住宅や県営住宅の居住者が多い地域です。玄関に名前を出していない方が多く、困る事が多々あります。近隣の付き合い等もほとんど希薄になっているため、民生委員の活動も年々十分には出来ません。
- 町内会、コミュニティ協議会等との連携が全くできていないので、地域の福祉活動ができていない。
- 地域行事への参加自粛をお願いされる状況になり、今まで当たり前に行っていた活動を休止せざるを得なくなってしまったために、情報収集が難しくなっています。地域の繋がりが薄くなっていないか。課題が見えにくくなり、助けを必要とする方々も声を上げにくくなっていないか。そのようなことが気になります。
- コロナが収束しない中で、委員の地域での関わり方、訪問活動の個人差に対する配慮をしながら、地域の活動を行うことへの個人差を考えてあげることが大切だと思います。
- 担当地区が福祉館や公民館等のあるところより高台に位置している。高齢者には移動が大変でふれあい会食も個人宅を借りてやっている。また、町内会加入率が低いことも色々な活動を困難にしている気がする。
- 地域住民との交流をさらに深めて、相談等の対応を的確にしていきたい。

■谷山地区

- 地域に恵まれています。町内会長さんを通じて色々な相談にもものってもらっています。かねての皆様との連携、コミュニケーションを大事にしています。
- 私の住んでいる所は町内会がなく、横の繋がりがなく町内を把握できていない。
- 町内会と民生委員の連携がもっとあってもいいのではないかな。
- 災害時に一時的に集合するための建物が、東屋風なものでもあればよいと思う。
- 以前と比べて町内会などの結束が薄れ、夫婦共働きで、休日なども町内会の行事等に参加できない人が多くなってきた。アパートも多くなり誰が住んでいるかも良く分からない。個人情報情報の壁により、世帯票も作ることが中々できない。「福祉についてお願いします、〇〇さんを知っていますか」等、時々問い合わせがくるが、自分も働いている身。よく近所が分からない。やはり、きちんと方向性を定め、公の立場からの情報が欲しいと思う。
- 隣近所の付き合いが、今後大事だと思う。声掛け、挨拶など身近にできるところから取り組む必要があると思う。
- 現在、地域福祉活動は十分に機能しているとは言えませんが、少しずつ活動を再開していると思います。私達に今できることを、民生委員間で話し合いながら活動していけたらと思っています。
- 校区社協、地域コミュニティの活動・行事が消化的であり、地域福祉を向上させようとの意欲が感じられない。役員が何年も同じであり、介護、防災の知識が低いようにみえる。総会資料で福祉マップ作成の予算を計上しているが、毎年作成できなかったと繰り返されている。先進的に活動をしている社協やコミュニティと交流を活発にして、学び、まず真似をする努力が必要だと思う。

■伊敷地区

- コロナウィルスが収束するまでは地域の活動などに参加をしません、というお年寄りもいます。あまりにも過敏になりすぎると引きこもってしまうのではと心配です。声掛けをしながら

ら、気持ちを和らげていけたらと思います。

- 地域の方の相談で、今は電話等で対応していますが、相談する方は家に来てお茶を飲みながら相談を聞いて欲しいと言われるのが辛いです。
- 現在は、密を避けながら消毒、換気など配慮し、お達者クラブも再開、地域の訪問活動も、マスク着用し短時間での見守りを行うことが出来て、地域の方の様子も見えてきてほっとしています。しばらくこの状態で対策を取りながら、できることをやれたらと思います。
- コロナ禍で見守り訪問が難しいところであります。
- 地域での集まりには三密を避けていくしかないと思います。行政の方から、部屋に対する人数など指導してくださると良いと思います。
- 近所の方との普段からの声掛けや挨拶など、当たり前の交流がまず一歩だと思います。その輪を広げていくことから、地域の連携や思いやりの輪が広がっていくと思います。
- 担当している地区は、町内会への加入率も低く住民同士の交流も少ない。その中での地域福祉活動を推進することに達成感が少ない。

■吉野地区

- 町内の回覧が各家庭に行くことで、地域の活動になるのではないのでしょうか。月に2～3回行われる事で充実され、安心して地域で暮らせていけるのではと思います。補助金の対象として作成できないのでしょうか。
- 独居の50～60代の男性が、中々地域とも関わらず、こちらにも接触しにくい。隣近所も、今の時期、他人のプライバシーに入っていくのが難しいので、家の中の状況が分かりづらい。男性が親の介護をしている件数が増えていて、中々立ち入るのも難しいです。
- 私は、向こう三軒両隣が仲良くできることが、地域福祉の基本ではないかと考えていますが、避けているような印象を受けています、町内会活動は、一番の地域福祉活動だと思うのですが、参加したい人としたくない人が両極端でどうすべきかと思う。
- 町内会への若い世帯の入会者が少なく、また、高齢を理由に脱退の世帯が多いこともあります。
- 隣人関係の強化が必要だと思います。

■桜島地区

意見なし

■吉田地区

- 高齢者、障害者、子ども等が集える施設や公園が近くにない。中心部は交通手段も便利であるが、周辺部は不便で利用したくてもできない。公園などは始良市のものをたまに利用しているがうらやましくて仕方がない。

■喜入地区

意見なし

■松元地区

- 自治会の会合や活動になるべく参加し、地域の実状や住人の動きを知る努力が必要。新しい住人が増え、自治会に未加入の家庭もあるが、コロナ禍でもあり、どこまで立ち入って良い

のか探り探りである。分かる範囲でポスティングしている。また地域の世帯数も増え、民生委員一人では体力、能力に無理があります。

- 訪問が中々できないので連絡先等を開示して欲しい。

■郡山地区

- 郡山地区には眼科医院がなくて困っている。運転免許証返納後の買い物に不安があります。週一でも日時、コースを決めて町内を廻ってもらえたら助かると思います。スーパー等の移動販売車等で。
- 郡山の福祉課及び支援センターは良く対応してくれています。

②高齢者福祉について

■中央地区

- 元気な高齢者に対する支援の在り方。他人からの支援を拒否されるが、自宅で倒れていたりするので、本人に知られないように陰からの支援の在り方をどうしたら良いか。
- 高齢者や障害者のいる家庭は、身内だけでは支えられない。福祉サービスを利用しても家族の負担は大きいものがあります。ボランティア活動、地域の交流の場など、身近で理解できる体制作りが必要ではないかと思います。今後、介護講習の中に取り入れて欲しいと思います。
- 一人暮らしの高齢者や車椅子での避難に即応した避難場所の多様化。車椅子でのトイレの問題。一人で高齢の親の介護をする人を孤立させないための福祉。パソコン、スマートフォンが苦手な世代に、国が推進するデジタル化をよりやさしく、より分かりやすく説明して欲しい。
- コロナ禍の今は、特に地域の中で高齢者はあまり外にでる機会が少なくなっていると思います。誰かと繋がる、話し相手や相談など、その役割が民生委員もですが、地域で把握していけるようにしていけたらと思います。
- 認知症の方が安心して慣れた地域で暮らせるような仕組み作りが必要だと思われます。
- ポスト訪問や電話訪問を勧められているが、やはり顔を合わせての訪問で、相手の言葉や仕草、表情で気持ちを汲み取る事が出来ます。引きこもりで、ますます認知症の方が増えるのではと心配しています。
- 高齢者が引きこもって一日中誰とも語りかけがないとのこと。せめて公園でグランドゴルフやお茶飲みだけでも出来たらと思います。
- 高齢者の孤独死を無くすような取組が必要。引きこもりがちな人を把握し、訪問回数を増やすことなどが考えられる。
- 災害時の避難所の在り方が高齢者、障害者に対して支援されているかどうか。今後、気象の変化で避難の機会が増えると思いますが、安心安全に過ごせる避難所を望みます。
- コロナウィルス感染症が怖い高齢者が数人いるので、0人が続いたら安心してふれあい会食をやりたいと思っています。
- 久しぶりに会う高齢者は、どうしても話す機会が無いので話をされます。集団にて食事をするのはもう少し考えた方がよいと思います。
- コロナ感染対策の中での活動は難しく、遠くから見守るお年寄りが増えました。なるべく多くの方に声掛けする努力をしたいと思います。
- 引きこもりがちな高齢者の方々が、コロナの事で会えないことに寂しい思いをされているだ

ろうと考えても、難しい活動になりました。電話でも健康状態は解らず自分の行動も大事なのである意味、ストレスは大きくなるばかりです。

- 新型コロナウイルスの流行のため、すべての会合が中止になり、時間短縮、無駄話はしないようにと、高齢者の方々の楽しみが減少し、だんだん会合にも出席するのが面倒となり引きこもりがちになっていくのが危惧されます。民生委員の方が細目に訪問を行い、話し相手となり会話を増やすことも良いことだと思います。
- 高齢者の世帯が増えています。一人で見守るには限界があります。もう少し細分化できないものでしょうか。ゆとりを持って見守りたいです。
- 独居高齢者宅を訪問する中で言われることは、語り手がないということです。コミュニケーションをとりたがっています。そのような場所ができればと切に思います。
- 感染症で高齢者の日々の生活を収縮するのではなく、規模を小さくして色々な行事を開催できるようにして頂きたい。高齢率が高くなり認知症の人が多くなっています。
- コロナ感染が怖くて外出を控える高齢者が増え、自宅へ引きこもり、体力が（足、腰）が弱ってきていると相談を受けます。どういうふうに対策を見出したらいいのでしょうか。
- 新型コロナの事が一番心配です。地域の福祉活動は、今からインフルエンザ等の心配もありますので、高齢者の集まりは自粛をした方がよいのではないのでしょうか。
- 現在は行事が中止で家に引きこもる高齢者が増えているのではと思います。感染対策をしっかりして、出来たら高齢者の楽しみを無くさないようにしたいです。
- 何か月もお達者クラブが中止になり、体力的にも劣ってきている方も居ます。コロナウィルス感染症が収束して、皆さんの元気な姿を待っております。
- 高齢者の買い物が不便なので、移動販売車や高齢者の一人暮らしを減らす方法はないかと考えてしまいます。
- 活動しにくい大変な時代である。高齢者の交流もままならず、寂しい高齢者を作らないようにしたいとは思いますが、福祉活動は、行政からも情報が欲しいです。支援して欲しい方は個人で、私の方に連絡は中々難しいので、地域包括支援センターともしっかり連携がとれたらいいと思います。
- 高齢者は持病持ちの方が多く、重症化し易く、死亡率も高い。巣ごもり生活でストレスに起因する病気になったり、転倒などの事故が多くなったり、認知症が急に進むとか耳にする。活動内容柄3密は避けられず、リスクを負ってでも活動再開すべきか悩むところである。
- 3密にならない空間が必要だと思います。高齢者は、特に喘息や風邪等々、日常的な感染症はどこでもあります。出来るだけ会合でも分けて実施するなど、配慮すべきだと思います。また、大声を出さないようマイク使用等にするべきです。
- 高齢者が増えていく中での相談や対話等に力を入れていきたいが、コロナ禍でも対応を考えやっていきたい。
- 地域内では高齢者のウエイトが年々高くなっています。コロナ問題でも重症化し易いので、家にこもりがちになり、認知症が進んでいます。町内会の活動や経済活動も縮小され、地域活動がゼロになり、民生委員への相談も増えてきています。健康や介護についての心配ごとが多くなっています。
- コロナ禍で人が集まる事が出来ず、家に引きこもり気味、良い対策があればと思うばかりです。高齢者には無線放送設備の取り付け等があれば良いと思います。
- コロナウィルス感染症が心配される中、行事等も中止が続く、高齢者の方に会いにくい状況です。一人暮らしの方は少ないので、郵便や新聞でチェックしているだけですが、気軽にお

話しが出来ないのが残念です。近所の方の声掛け、お付き合いの大切さを実感します。しかし、引きこもり、ニートの方、ご本人その家族への対応はますます容易ではありません。

- 高齢者が集まる会等は、なるべく行うべきではないと思います。(お達者クラブ等)
- 独居老人世帯が多く、近親者との付き合いの無い人が多い。もう少し、子供、兄弟、近所の方々との交流をもってもらうにはどうしたらいいのか悩んでいます。月1回でも近所の高齢者を集めて、炊き出しでもできたらと協力者を募っているところです。
- 地域のグループホームとの会議の中で、高齢者を避難所へ連れていくことが難しく、行く時の危険箇所の多さ等があり、結局、避難場所へ行けなかったと聞いた。地域の高齢者はたくさんの方の不安を持っていると痛感しました。

■谷山地区

- コロナウィルスは自らも不安に感じながらの活動で、高齢者宅への訪問は中々難しいところです。ふれあい会食等が一番困っており、場所に対して人数が多く、密をさけられないため、今後、2回に分けるとか、何らかの方法を考えなくてはならないでしょうが、未だ方法が見つからない。良い方法を教えて欲しい。
- 介護認定の年度更新の折にでも同伴できるシステムができれば、ご本人の様子がより一層理解していけるのかなと思います。
- 独身の子ども（男性）が高齢の親の面倒を見ているケースが多く見られ、在宅でのケアのあり方（親の施設入所拒否）が問題だ。
- 以前、高齢者へ支給される紙おむつが毎月送られてきていたが、使用数が少なくてたくさん残ってしまいました。もったいないので簡単に支給の減や中止ができたと思います。
- コロナウィルスの収束に目途が立たない今、高齢者の集まる機会が少なくなり、認知が進んだり、引きこもりの方への誘いが難しくなったりしています。集会の場所など支援が欲しいです。
- 困っていて連絡して自ら解決しようと行動される方は良いが、それが出来ない人をどうやって発見していくか、どのような活動をしたらよいのか。
- 健康づくりとして、高齢者が近くの公園ぐらいたったら歩いて参加できるよう、器具を何個か取り付けて欲しい。運動しやすいクッション性の高いマットであれば、足にもやさしい歩きが出来るなど介護予防になる。
- 自然災害の規模が大きくなる中、特に近くに頼りになる親族等がいない、在宅の独居高齢者や障害者の避難対策を日頃からしておくことの必要性を感じる。
- 6月から毎週水曜日に、よかよか体操をはじめ、65才以上12名参加。もう少し月日が過ぎたら、ぜひ参加人数を集めたいと思っています。
- 初めて介護認定を受けた方で、要支援、要介護1～5などの結果を、担当民生委員にも情報をいただけると、訪問の際に参考になるのでお願いしたいと思います。
- 現在実施されている「よかよか体操」にスタッフとして参加しています。目的は健康づくりですが、他者との交流がどれだけ精神面に良いかを実感しています。「ここに来なかったら、引きこもりになっていたかも」との声も聞きました。欠席者がいたら、皆さん気にして、「電話してみよう」、「行ってみる」に発展します。年に3回、理学療法士さんや保健師も来られます。専門家の話はとても参考になります。いただいた補助金で、お花見に行こうと計画していた矢先の“コロナ”でした。先日スタッフ4人で話し合い、万全の体制で再開します。連絡したところ皆さん喜ばれました。小さい組織が数多くあれば、地域福祉は充実すると思

います。専門家の援助が必要です。65未満も参加しています。

- 3月から高齢者の活動がストップしています。近くに広い場所でもあったらよいのですが。
- 外部との関わりを持ちたくない、引きこもり高齢者がいる中、この新型コロナウィルス蔓延のため、増々引きこもり状態が増えていく現状を、いかにして元気に過ごしてもらえるか思案のしどころ。
- 町内会長、役員のコロナ禍に対する考え方により、各町内会の取組が違います。高齢者にとって、行くところが少ないので、行政等の支援があればと思います。
- 高齢化社会が進む中、鹿児島市内は地方に比べ整っているようにも思うが、住民同志の交流の場が少なく、地域コミュニティが機能されていないように思う。町内会脱会者も増えるし、町内会活動をもっと充実し、1人・2人暮らしでも安心して地域で暮らせるように力を入れて欲しい。
- 高齢者にとっては、月1回、年1回の交流の場が延期又は中止となっている現状で、何ができるのか考えてしまいます。こんな中でも「元気で100才まで生きる!」を目標に、毎日ウォーキングをしている方もおられます。個人でできる事として小さな事ですが、見守り声かけ等、明るく気分良く接していけるように心がけていきたいと思う。
- もし、自分がコロナに感染したいらと思うと高齢者の方への訪問が心配です。最小限の訪問にしています。どうすればよいか不安です。
- コロナウィルスに感染していて無症状の方、市内で感染者何名と聞くと、密に注意して寄り合いをと思っても、高齢者の場合、特にためらってしまいます。家に居るだけでは「足腰も弱る」、「何もすることなく寝てばかりの毎日だ」との声を聞き、切なくなります。
- 1人住まいの高齢者宅への訪問活動が思うように出来なかった。台風時の避難活動が思うようにいかなかった。
- 高齢者社会における福祉施設の充実が必要だと思います。
- 地域老人クラブでグランドゴルフ、お達者等を楽しんでいます。その場で地域の情報が詳しく分かります。問題に応じて活動しております。コロナ関係も一時休みましたが、手洗い、マスク等、皆様と共に考えて行動しております。
- 介護認定が出来ず（されておらず）福祉を受けられない。相談しても先に進まない。

■伊敷地区

- 高齢者で一人暮らしの方が多い。外に出られない方への支援をどのようにすればよいのか毎回、訪問に戸惑ってしまいます。
- 高齢者のふれあい会食について。密を避けるため対処してきましたが、何か起こる前にと中止せざるを得ませんでした。行政からの早い判断が欲しい。
- 一人暮らしの高齢者は買い物が大変と聞きます。フードトラックの野菜、果物、雑貨は有り難いのでできないものでしょうか。
- 自粛ムードのコロナ禍、少しでも早く活動を再開させたい。市民のひろばのコロナ対策コーナーや老人クラブ連合のガイドラインを参考に協力していきたいと思います。

■吉野地区

- 一人暮らしの高齢者が増える中、交通安全の充実に力を入れていただきたい。
- コロナウィルスで高齢者の集会は取りやめになった。かねてから声かけをしているが、町内会未加入者が多くて隣近所の連絡がうまくいかない。

- コロナ感染症の最中、独居老人の訪問活動が思い通りにできないことが残念です。

■桜島地区

意見なし

■吉田地区

意見なし

■喜入地区

- 新型コロナの影響で、高齢者のふれあい会食も出来ないところです。
- コロナウィルス感染防止のため、色々な行事が中止となり、1人暮らしの高齢者は自宅閉じこもりで下肢筋力の低下が心配される。9月より、屋外での活動、室内では三密を避け、行事前には体調不良等ないかの確認を行う等の対策をして活動していきたい。

■松元地区

- 高齢者が気軽に利用できる福祉施設の増設を要望する。
- 松元地区に高齢者福祉センターの建設を希望する人が多い。
- 空き家を利用して、お達者クラブ以外の人たちが気軽に集える場所を提供して欲しい。

■郡山地区

- 高齢化が進む中、体力の衰え等で支障をきたす高齢者が多くなると思います。安全を図るため、見守りの強化を更に図るためには、民生委員と自治会が共同で見守りを強化して、安全な環境づくりを実行しなければならないと思います。
- 高齢や重篤な持病等がある方々は、積極的に避難所へ行けない状況にあります。ご近所との関係は強いのですが、いずれも高齢者であり対応が難しいところです。避難所の指定の在り方等にご配慮を頂けましたら、大変有り難いことです。

③子育てについて

■中央地区

- 親が夜働く家庭が多いので、小学生や中学生が気軽に寄れる集会所のような公的場所があれば、そこで大学生などに話し相手になってもらったり、勉強を教えて貰ったりなどの施策は出来ないでしょうか。
- 児童生徒の様子を伝えてくれる学校がある一方、口外出来ないと中々開示してもらえない学校や園がある。校長先生方の判断によると思われますが、頂いた情報は守秘し、人権に配慮しながら地域で見守っていききたい。
- 小さい子供達の状況を把握するのに、マンションにお住まいの方への訪問が難しい。不審者のように見られないか心配、気軽に声をかけられないのが残念。
- 新型コロナウィルスの影響で色々な活動、行事などが中止になり残念です。子育てサロンなど親子で参加する機会もなくなり、交流できず残念に思われた方も多くいらしたのではないかと思います。また多くの方が参加してくれたらうれしいです。

■谷山地区

- 私は民生委員のほか、小学校のスクールガードとして7年目になります。貸与された緑色のジャケットと帽子が老朽化し、色あせて見た目も見苦しく良くない状況にあります。市教委委嘱の児童通学保護員の方は、制服も貸与され定期的な更新もなされていると思いますが、スクールガードはジャケット、帽子を使い回して使用しています。古くなっても更新はありません。このようなボランティアに対しても資金支援を予算化して、5年に1回くらいは更新して欲しいと思います。
- 子育てサロンは、状況を見ながら7組まで可ということで、三密にならないよう、熱を測りながら、手の消毒をして、ボランティアの人員も減らし活動しています。定例会も広い場所を借りて、同じく熱を測り、手の消毒をして、時間も早く終わるように努めております。

■伊敷地区

- コロナ禍の中で、中々人数の制限などもあり、子育てサロンでも接触することが避けられないので不安である。

■吉野地区

- 最近の子育てサロンに幼児の集まりが少なく、大人の集合主体の思いがあります。委員活動の在り方も対応したらどうかと思います。
- 出産を控える中、2歳の子供を預ける所がないと相談を受けました。何とか出産月に保育園が決まったとのこと。もう少し気軽に預ける事が出来るようになったら良いと思いました。
- 子育て世代と高齢者の交流ができると、お互いにメリットがあるような気がします。

■桜島地区

意見なし

■吉田地区

意見なし

■喜入地区

意見なし

■松元地区

- 担当地区の不登校の中学生や引きこもりの人の支援が中々できていません。私の力不足なのですが、関係課の方など知恵をいただいています。これからも連携を取りながら悩みを解決出来たらと思います。

■郡山地区

意見なし

④障害者福祉について

■中央地区

- 災害が各地で起こっています。避難所などへは、健常者も仕度など大変ですが、障害のある方々も避難が安心してできる環境づくりなどお願いできたらと思います。

- 障害児、重介護の高齢者が在宅していても、それをオープンにせず、周りに迷惑をかけたくなくて、家族が抱え込んでいるケースがあります。地域の中で人目を気にせず普通に暮らせるようになれば、家族も周りの人達も楽になれるのだと思います。

■谷山地区

意見なし

■伊敷地区

- 大型の支援施設だけでなく、利用しやすい身近な施設の継続をお願いしたい。成人した障害のある方々が、障害の程度に合う働き方や働く場づくりが必要と思う。

■吉野地区

- 障害のある人の受入体制の充実。福祉に関する相談窓口、情報提供や案内の充実を第一に考えます。

■桜島地区

意見なし

■吉田地区

意見なし

■喜入地区

意見なし

■松元地区

意見なし

■郡山地区

- 障害者や子育て家族との接触が難しいと感じている。民生委員・児童委員同志はもちろん、地域の方々や施設の人々とのコミュニケーションが取りづらく苦労している。
- 障害者の災害時の避難について、特に重度の障害者で人の力が必要な方については、行政で名簿を作成し、方法や場所等について決めて欲しい。地域の力では説得できません。

⑤その他

■中央地区

- コロナは自分で気を付けて、周りにもうつさないようにしたいです。
- 是非、活動や催しに関するガイドラインが欲しい。
- ワクチン、予防接種の大切さを実感しています。元気である限り、いろんな交流会には参加したいと思います。感染は怖いけど、消毒など気を付けて、巣ごもりにならない状態を作り活動を続けることも大事だと思う。
- 老人会等もすべて活動を控えている中では、民生委員の活動も難しい。感染症が収まるのを待つしかないのではと思います。

- コロナ禍の中、電話で安否を確認したくても、足の悪い方などは電話に出る間に怪我でもされたらと思い、間隔をあけて訪問しています。地域福祉支援員の方の名簿、活動内容が把握できていません。どのように連携とっていけば良いのでしょうか。
- 福祉を上手に使って暮らしている方もいれば、おすすめしても何とか自分でやりますと言われる方もいて、考えさせられことがある。地域包括支援センターがすぐに対処してくださり、感謝しています。
- 民生委員の地域福祉活動（見守り）は、顔を見てお会いして話をするすることで、体調の良し悪しも通じるので、会ってないと希薄になっているのではと心配です。外出もしていないので、仲間づくりや楽しみの行事も、町内会でも中止になっているので、引きこもりにならないか危惧しています。
- 福祉全般、または防災についても、自助、互助、共助、公助の概念を、地域住民に説明して理解させることが必要であると思います。
- 人それぞれのポリシーがあるので、支援したい気持ちもありますが、拒む方もいらっしゃるのでは行動も困難です。現在ではコロナ感染や個人情報関係で、支えあうことも難しいことがあります。
- 鹿児島市が作成した独自のコロナ感染防止対策のガイダンスがあれば、我々民生委員はそれに沿って従来通りに活動して参ります。
- コロナ禍の中、民生委員としてどう活動して良いか考えさせられた期間でした。対面活動も制限のある中、できる範囲でと思いながらも模索の日々でした。前任委員先輩の助言をいただきながら、どうにかやってこられたと思います。
- コロナ禍の中で、3密を避けて安全に感染しないように活動していくことが大切だと思います。人との繋がりは、会話や人と目を合わせて笑い合うことが大事だと思います。私達も気を付けながら早くコロナウィルスが収束することを願っています。
- 悩み事や相談を持ち掛けられた場合の対応能力、解決能力が非常に不足していると思います。他地域、他団体の話を聞く機会がもっと増えたら良いと思います。
- コロナウィルス感染症があるため、中々活動ができない
- 福祉の役員が高齢化しているので、後継者作りが望まれます。
- 自分自身がコロナに対しての知識を身に付けていくことが大事であると思った。地域包括支援センターや保健所との連携はこれから大事になってくること。引きこもりの方への支援も目が離せないと思う。
- コロナで、誰もが独立独歩を意識し、実行することを強いられます。ボランティアも最低限のところから始める良いタイミングとして捉えて良いと思います
- コロナウィルス感染拡大に伴い、助け合い、支え合い活動が難しくなっているが、感染症防止対策を講じながら、これらの福祉活動を進めていくべき。
- 民児協の活動は、コロナを見据えながら活動を進めても良いのではないのでしょうか。
- コロナウィルスが収まるまでは、交流活動は無理をせず活動すべきであると思います。
- 新型コロナに限らず風邪でも、重症化や命を落とす方もいると思うので、過度に恐れず活動すべきだと思う。家に引きこもることで別の弊害があると思う。だが体調の悪い時は、無理せず休める風通しのよい環境、人間関係が必要だと思う。
- 要支援マップの作製及び活用方法について、範囲と個人情報との兼ね合いが難しい。市からの指針があれば良いと思います。
- 民生委員に相談して良かったと言われるよう、私達も情報の守秘義務を守り、他機関へ繋げ

る努力をしなければならないと思う。近隣の方へ寄り添い、地域ぐるみで安心して生活できるよう、援助活動に努力しなければと思っています。

- 新型コロナウイルスの感染拡大で、人と人との関わりや触れ合いが出来にくくなっているのが、福祉活動の足かせになっていると感じている。一人一人が情報を共有し合って、あたたかい目で見守る事が大切だと感じている。
- 個人情報の保護の縛りがある中、せめて守秘義務を守っている者同志の情報の共有は、互いの活動を充実させ、安定したものにする効果があると確信します。民生委員と地域包括支援センター、居宅の連携は、お互いの負担軽減とチームワークに繋がると思います。
- 個人情報と横の連携への難しさ。
- コロナウィルスの中、訪問するのが気になり訪問の回数が減ってきている。電話や連絡カードだけになってきています。自分も家族に感染させないか心配。色々な活動を減らして欲しい。
- 行政が出来ることはしてほしいと思うこともあります。
- 色々な会議等がコロナで時間短縮、簡素化になり、今まで過剰なことなどが分かるようになりました。内容をすっきりと伝える方法、長時間にならないよう工夫することが必要だと思います。交流の在り方としては、顔合わせをして、仲良くなれるきっかけをつくり、個別でも交流ができる方法があればいいなと思います。
- もう少し時間をかけて見守りを続けていきます。コロナ対策は三密を守り、対応していく努力と心配りが一番と考えます。
- 3密の意味をよくわきまえ、相手に感染させないこと。自分の体調に異変があった場合には隠さず対応する。
- 皆さんまじめにボランティアされる方ばかりで、どこが音頭をとるのか。もっと連携を取り、無駄を省き、簡素化して欲しい。一般の人への福祉サービスより、ボランティアをする人の負担が大きい。
- 空き家の管理、庭木の剪定、草木が近隣住民に迷惑をかけているところが多い。福祉に関する情報提供を家族や身内の方に知ってもらう。いざという時、家族の人に連絡しやすい手段を考えてみる必要があるのではないか。
- 生活福祉基金の返還について、民生委員が訪問して返還を促しても中々返されません。対応に毎回苦慮しています。地域福祉活動を三密に気を付けながら対応しています。消毒液などの援助があったらと思います。
- 校区を担う福祉担当者の役員の確保が毎年困難になっている（民生委員、校区社協）。
- 杖を地域の福祉館で受け取る事ができたら助かります。
- 行事を実行する際、感染症対策や基本的なことは理解していても、心配するばかりで大きなことが出来なくて悩んでしまう。
- 福祉館が込み入った所にあり、高齢者が往来するには危険が多い。階段が大変。駐輪、駐車場がない。あるいは狭い。
- 出来るだけ直接対面を避けて、電話での対応、自宅を外から見守ったり、玄関先で対応しています。3密を避けながら孤立にならないように注意していきます。
- どのように交流できる場所をつないで行ったら良いのか、中々集まる機会も少なくなり、にぎやかな声が聴けなくなりました。
- 現在の制度では中々お助けできないケースに対処してくださる窓口（相談）があれば幸いです。制度に適合すれば大きな問題なく申請し、助成等を受けられますので。

- 地震などの自然災害が起こった時、地域でどのような活動が出来るのか。自分に課せられた役割を考えると不安になります。避難場所を増やしたり、コロナ禍での災害活動など話し合う機会も減る中で、福祉活動も難しいです。
- 何もかも中止では、身体的、精神的に支障をきたすので、基本的な防止対策をしっかり守った上で、徐々にやっていければ苦痛も感じなくなるようです。福祉全般については、様々な分野において専門機関など設置され、手が尽くされていると思います。そこに携わる方々も人格的にとても立派な方々が多く頭が下がる思いです。
- 三密を避けようとすることで、孤独を感じている人が多い。全く人を集めないことが幸せだろうかと感じる。小さなグループをつくり、雑談をする場を提供することが大事では。
- 現状維持のまま、活動自粛するのが良いと思います。
- 町内会と民生委員が共同で、文書を作り、安否確認を兼ねて配布しました。外出のままならない状況の中で、このような活動はとても喜ばれました。一番感じたことは、電話なり訪問なり、繋がっているという安心感を与えることだと思いました。
- 個人の正しい理解と冷静な行動が求められる。また自助努力が必要と思う。自助、共助、公助で、住民一人一人が安心して暮らし続ける地域作りを。
- コロナが収束しない中で、感染しにくい、感染予防対策に知恵を出しあって、可能な限り少しでも人々が会え、顔が見えるという形に持っていけると良いのではと思う。
- コロナウィルスについて正しく理解を深め、様々な活動を進めていくべきではと思う。
- 福祉について、自分がまだまだ未熟なため、専門家の方々に心より尊敬しております。
- 老後をお金の心配をしないで暮らせるような社会保障制度に力を入れて頂きたいです。
- 相談に乗れば乗るほど、相手との距離感を大事にしないと、当人の自立が難しくなる気がする。気を配り見守る姿勢を大事にしている。
- 場合によっては情報が欲しい時があります。守秘義務についてもっと考えて欲しい。
- 校区まちづくり協議会と校区社協の活動において、重複する部分をいかに有効に機能させるか。
- 感染のリスクを考えてしまうと難しいものがある。ボランティアであることを今は意識して、感染することで他に迷惑をかけてしまうのは本意ではないのでは。
- 市役所等の相談機関は充実していると思います。
- 福祉に関する相談を行政にしても、その後、行政の動きが何も見えません。結局は、私達がずっと携わり、前と変わらず対応している。行政からも途中経過を伝えてもらいたい。
- 新型コロナウイルスの感染拡大により、様々な行事等が中止になり、地域のコミュニケーションが少なくなり、福祉活動はもとより、様々な活動がやりにくくなってきている。1日も早い収束を望んでいます。
- コロナウィルス感染症が収束しない中、訪問する際は必ずマスクを着用しています。マスクをすると顔が分かりづらく、面会者に不審者と思われそうで気になる。顔が見えるフェイスシールド等の活用・配布をお願いしたい。
- 鹿児島市に様々な福祉施策があって素晴らしいと思います。その支援等に当てはまるのかどうか、専門知識がないと分からないことも多いように思うので、対象者をスタートにして、受けられる支援をゴールにしたフローチャートなどを作成してもらえると有り難いです。
- 訪問交流は難しいが、マスク着用、消毒の徹底、密を避けるなどして福祉活動が停滞しないようにしなければいけないと思う。工夫をしながら活動をしていく。コロナ対策をしながらしっかりと支援が出来る体制づくりが必要だと思う。

- 新型コロナウイルスのため、地域活動がほとんどされていない状況ですが、各人が対策を行い、もう少し活気のある活動をすれば元気をもらえるのではと思います。
- 現在は、行政を中心に、問題が発生したら、その時に全力でその問題に取り組み、良い方向でご指導いただき本当に感謝しております。これからは今後予想できる予防について積極的に取り組んでもらいたい。
- 鹿児島市の福祉施策は結構充実していると思いますが、その案内や情報提供がうまく住民に伝わっていないように思われます。地域に多くの福祉支援員がいればいいなと思います。

■谷山地区

- 研修の機会ができたと思います。
- 新型コロナウイルス感染症が収束しない中の活動は、どうすれば一番良いのか考えてしまって難しいです。
- まだ研修中でよく分かりませんが、これから色々と勉強します。
- 高齢化が進む中、個人情報への対応、コロナと人との繋がりがうすくなり、以前の様な人との交流が少なくなってきました。一人暮らしの方や近所との交流が少ない方々との接触が、難しくもどかしい思いがあります。
- 社会的自立が難しい若者が多い状況がある。一人でも多くの人達が、社会の中で自分らしく生きていけるよう、また、社会の担い手になれるような若者の自立に向けた支援を充実させていく必要を感じる。社会の担い手が健全に育てば、ひいては高齢者福祉の充実などにも繋がっていくと思う。
- コロナ前と同様な取組は難しいが、専門機関のアドバイスも得ながら、安全な取組を工夫して、出来ることを一歩ずつ進めていくしかない、民生委員としても訪問は控えていたが、必要に応じて電話での関わりも大切と思った。(台風時の状況確認や避難所案内など)
- 福祉に関する情報をもっと必要な人々に届ける手立てが必要と感じる。
- 困っている人の現場を自ら回って、生の状況や問題点の情報を認識することからスタートすべき。
- 避難所の情報を、ネット等で早く閲覧できるようにしてほしい(開設日時、人員、備品)。誰が支援者として動くのか、訪問看護、介護をしている福祉施設か町内か、前もっての情報交換、確認が必要である。
- 近年は、住民の価値観の多様化や、近隣関係の希薄化などにより、相談を受ける機会が少なくなっており、情報も個人情報保護等により得にくくなっております。行政、福祉団体との情報共有を今まで以上に密にする必要があります。
- 新型コロナウイルス感染症の予防対策学習会を町内会単位で開催し、コロナの怖さを認識させること。その上で、参加者に手指洗浄薬、マスクを配布する。その学習会を継続的に開催する。
- 福祉館にエレベーターを付けて欲しい。ふれあいサークル等に参加したいが階段が登れないとの意見が聞かれます。
- コロナウィルスで、民生委員とそのほかの関係機関との交流がない。個人的には地域を周りたい。特に高齢者は話をしたいと希望している。引きこもりにならないか心配だ。
- 感染症の中での活動の統一マニュアルが必要と思う。
- 新興住宅地で町内会の加入も進まず、地域コミュニティが難しくなり、福祉活動も停滞気味。
- 生活困窮に陥った人は、民生委員を介さず直接行政に訴える例が多い気がします。行政の窓

口にはどうか配慮のある細やかな対応をお願いします。

- 引きこもりの人や生活困窮者等、福祉を必要とする人を、地域や社会の中で支え合うことの難しさを実感している（本人が外へ出ようとしないため）。地道な寄り添いが大事だと思っている。
- 部屋（室内のみ）だけの交流だけではなく、外での交流（食事・運動レクリエーション）等も取り入れた活動。ハイキング等も良いと思います。
- 今回のコロナ感染症を契機に、今後の地域福祉活動の在り方、実行方法などの見直しの時期に来ているように感じます。これからの高齢社会や少子化の日本経済を考えた時、今からの子どもたちに国の借金を残さない、今ある国の借金を少しでも減らすために、現在の地域福祉活動の無駄を、少しでも見直すことも将来の活動に繋がっていくのではないのでしょうか。テレワークやウェブ会議なども幅広く活用したいものです。テレワーク会議やインターネット会議等を小規模会議（会長会議→会長から会員へテレワーク等）で効率よく行うことで、感染症のリスク減、ペーパーレス実現、出張費の削減（削減分は福祉活動の予算変更や寄付へ回す）、時間の有効活用等のメリットも多く生まれると思います。
- 団地も高齢化の波が押し寄せてきている。加えて新型コロナウイルスの収束がないまま、団地は一層静まり返っている。日常での声かけ、挨拶は最低のマナーだと思う。一方で、子育てサロンに参加する若い母親達の子育てへの意欲は感じられる。ノープログラムの時は講演、集団遊びなど充実したものになれば、元気への突破口になるかもしれない。
- 県庁・市役所の福祉課に携わられた職員の方々の退職に伴い、その時点で関係なく去ってしまわれるのはとても勿体なく、その後に地域への助力・助言をしていただける道を作り、地域への町内会の相談員として残ってほしいです。身近に相談できる方がいてほしいです。経験豊かな退職者の力を是非活用してくださればと思います。高齢者安全杖を地域の福祉館で受け取れるようにしてほしいです。民生委員の印を押すと同時に、市役所へ受け取りに行っていきたいと頼まれて取りに行く事になりますが、近くの福祉館で受け取れたら便利になります。
- 地域の各世代が、同時に心の交流ができる行事をつくり、一体感、絆、協力して問題に取り組む精神を耕していくことができると良いです。
- 新型コロナウイルス感染症の収束の予想がつかない現状では、交流の参加人数を制限した上で、予防対策をしっかりと三密、ソーシャルディスタンスを守り活動したらどうでしょうか。
- 地域にある福祉団体が一堂に会する機会を年に2回ほど開催できたら、それぞれの立場や悩み等を少しでも理解できそうな気がします。
- コロナと共に・・・という考え方が今後なくなってしまうだろうから、感染を避けるだけだと色々な事を中止にすることになる。そうすると、生活していく中で精神的ストレスに繋がってしまい、良くない世の中になってしまうと思う。感染対策、工夫、理解をしながら、少しずつでもコロナ前の生活に近づける方向に進めていけたらと考えます。
- 新型コロナウイルス感染症が今後収束しないと言われ、うまく付き合っていかななくてはなりません。地域によって、行事等を計画通り行うところ、出来ないところは、その地域に任されているような気がしますが、上からの指針も必要なのではないのでしょうか。
- 人間十人十色、行政の助けを積極的に求めて来る人、それを嫌い、助けを拒否する人、様々です。一口に福祉と言っても、人それぞれ何がこの人に合い、何が合わないのか熟慮したい。
- マスク、手洗い、消毒を励行しながら、地域の状況に応じて三密を避け、地域の繋がりを培

っていくことが大切かと思います。配慮や支援を必要とする人々が、孤立することを防ぐ必要があります。これまでと取組方を変えて、直接対面ではなく、一定の距離を保った支援や電話、手紙・訪問カード等を活用したコミュニケーションの取り方が望ましいと思います。感染しない、感染させない、クラスターを作らない、感染予防にはより一層の努力が必要かと思われます。

- 高齢で一人暮らしの方、高齢の方が1人で介護をしている家庭がだんだん増えてきています。このような家庭を、今回の台風10号の時など民生委員1人で災害対策として支援していくのはとても無理なことです。町内会において名簿作成などの連携をお願いしているのですが、中々前に進まない状態です。災害対策を解決するにはどうしたら良いのか悩みます。
- 新型コロナウイルスが安全になるまで、活動は特に抑えたい。安全に気をつけて開いたとしてもクラスターが発生となるのが本当に怖い。
- コロナ対策は確実にいき、各活動に参加したいと思っています。
- 今期はコロナで一件も訪問ができていないので、収まったら改めて地域の方々を知りたいと思います。その上で、今後の対策を考えていきたいと思っています。
- 新型コロナウイルスの感染拡大の中、色々なイベント・行事・集会等が中止や延期になり、老若男女を含め、地域での交流が希薄になりつつ、色々な感染対策のアイデアを出しながら形は変わっても、少しでも元に戻れる努力が必要かと思います。
- 新型コロナウイルスの影響で、人と人とのコミュニケーションが取れないために、どう接すれば良いか、従来のやり方が出来ない、また高齢者の方々の孤独感が広がっている感じがします。

■伊敷地区

- 後継者がいないという現実がある。ボランティア活動については、小さいころからの教育も必要なのではないでしょうか。あまりにも民生委員への諸要請が増えてきているように思う。ソーシャルワーカー団体的なものを作り、活動するのはどうでしょうか。
- コロナ禍の中、会議スペースの人数の目安が欲しいです。コロナの感染の恐ろしさに個人差があるので集まりの難しさを感じます。
- 今後の地域福祉活動は、人口の減少などにより、高齢者を除く一人への負担ということを考えてみると、多くの仕事を抱えることになると思います。まずは楽しい思いで参加できるという交流になっていかなければならないと思いますが、自分の家庭との交流を振り返り見ることが良い結果に繋がると思います。
- 個人個人では対応が難しいことであり、一般の家庭の中まで踏み込みにくいので、役所は書面だけでなく担当者がそれぞれ行動をとって頂けたら有り難いです。
- 現在は、用件だけ聞いて次の回に解答するようにしています。留守の場合は、市からの窓口連絡票に用件を書いてポストに入れます。本人との接触を控えて対応しています。
- 人との接触が制限され、思うように福祉活動ができない状況にあります。
- 様々な会合がありますが、開催の有無の判断が会長判断なのか。市の考えを示して欲しい。
- 少子高齢化や人口減少地域における人と人との絆の希薄など、増々厳しい時代を迎えています。コロナウィルス感染症により、生活様式にも変化が予測され、日本経済もこれまでの水準維持が困難です。このような中、将来の希望に満ちた生活は困難であり、公助に頼ることなく、自助・共助の精神で、隣人同志が連携を持てる社会づくりに、行政はもっと力を注ぐべきです。

■吉野地区

- 個人情報の関係で情報不足です。福祉活動で何から手をつければ良いかよく分からない。調査依頼の際、電話番号を教えて貰いたい。区画整理で、住所だけでは居住先が分からない
- 避難施設の利用状況、空き部屋状況などの情報提供等が欲しい。避難施設として利用できる建物の増設を希望します。
- 民生委員は、生活多忙の中での奉仕活動である。行政の下請け的感じがする。地域住民の理解の浸透方法に妙案はないか。
- コロナ発生時の報道で、地域を知らせてもらおうと、心遣い等ができ、また希望になると思います。
- 地域包括支援センターから民生委員への申請印などの依頼が結構間違いがあり、他の民生委員に聞いたり、電話したりしています。センターと民生委員との連絡が、もっとスムーズにいくように。
- 戸建ての家とマンションでは、セキュリティの件で本人に会えなく限度がある。
- 委嘱を受けて1年満たない中で、活動に不安がある。自分も体調面の不安を持ちながら、民生委員として献身的に奉仕できるだろうか。その場その場の対応、多分、民生委員の先輩や現在一緒に取り組んでいる同僚に相談することになると思いつつ、できる範囲での活動に励んでいきたい。
- 民生委員としてどこまで地域住民の福祉活動に関わるべきか。新型コロナウイルスに対応した地域福祉活動のあり方について、踏み込んだ指針が欲しい。
- 新型コロナウイルス感染予防対策を十分考慮した上で、今後の民生委員・児童委員としてのあり方についてご助言いただきたい。円滑な社会貢献活動へのバックアップ体制。
- どのくらい家庭に入っていくのか、その見極めが難しい（訪問の時）。

■桜島地区

- 新型コロナウイルス感染症が収束しない中、人集めに大変困っています。何か良い方法があったら教えて下さい。

■吉田地区

- 市社協のデイサービスの廃止、敬老祝い金の減額など近年福祉行政の後退と感ずることが多くあります。福祉に力を注いで欲しいです。
- コロナ禍で、活動が自粛や中止になっている中で、福祉活動をしていくのは難しいところもある。お互いが十分に気を付けながら、ソーシャルディスタンスを保ちながら今後もやっていくしかないと思う。
- 新型コロナウイルスが収束しない中、色々な行事が中止になり、校区のコミュニティ協議会の活動もほとんどないです。交流が少しでも出来るために、老人会、また一人暮らしの方を中心に、ともしびグループの方には自主活動をいただき、情報をいただくことにしております。
- 民生委員として退員の意志を提示した。理由は、自身が高齢で健康不安のため。自身が集落を回って依頼するが、交代してくれる人がいない。集落長や支所にも相談したが、最終的には本人の責任としてやらざるを得なくなった。地域の状況により後継者選びは難しいが、本人が責任をとらざるを得ないのは納得いかない。行政も地域と連携して、民生委員担当者を

繋げる手立てをしてほしい。

- 会議をズーム等でできるようにする。若い人が働ける環境づくり。福祉を金もうけの場にならないような行政になってほしい。

■松元地区

- 少子高齢化、人口減少、過疎化の中であって、当地区は、老人クラブ等の活動が始めるにも各人の体力、気力の低下、個人主義等により、グループの結成が難しい。
- 住み慣れた自宅で安心して暮らすために、身近で小さな援助組織があればと日々思います。
- 福祉活動を充実していくには、地域の人たちが関心を持つことが重要なのではないのでしょうか。その先頭に立っているのが民生委員であると思います。その委員を担ってくれる人が中々いないのが現状です。行政として何か出来ることはないか、検討して欲しい。
- コロナ感染の中では何をやるにも考えてしまう。いろんな意味で人との関わり方が難しいし、感染したらと考えたら行動が出来ない。
- 生活保護費受給者に対しての密度の高い支援フローが出来ていないのではないかと。一旦支給が始まると、就職勧告などほとんど無く、そのまま支給が続けられているような気がします。足繁く本人に会いに行き指導出来る要員を付け、少しでも支給額が減っていけば、専門員の何倍も税金の流れが減る。皆、汗水たらして頑張っているのにという不公平感を持つ被保護者の考えも変わるのでは。
- コロナ禍の中、出来ないではなく出来ることを考えていくべきだと思う。行事開催にあたって責任というものを考えると中々物事が進まないが、どんな状況でも窓口を開けておくことが大事なのでは。
- 自治会等の交流があるが、会長や役員が1年交代するので、その度に初めからやり直すので工夫が必要。自治会、民生委員、社協福祉員の情報交換、研修が必要と感じます。

■郡山地区

- 集いや行事等が出来なくなり、人と人との繋がりが薄れていくように感じます。ある程度留意してできる活動は続けて出来たら良いなと思います。人との繋がりは、生きていくために必要だと思います。家に居るだけでなく、サロンなどに参加して楽しく語り、笑い、生きがいを見出して元気な生活を送りたいものです。

第3章 調査票

鹿児島市の地域福祉に関するアンケート調査票 (対象者：民生委員・児童委員)

問1 あなたが担当している地区は、どちらですか。(○は1つだけ)

- | | | | | |
|----------|------|------|------|------|
| 1 本庁(中央) | 2 谷山 | 3 伊敷 | 4 吉野 | 5 桜島 |
| 6 吉田 | 7 喜入 | 8 松元 | 9 郡山 | |

問2 あなたが担当している地域の福祉活動は、充実していると思いますか。(○は1つだけ)

- | | | |
|---------------|--------------|--------------|
| 1 とても充実している | 2 おおむね充実している | 3 あまり充実していない |
| 4 まったく充実していない | 5 どちらともいえない | |

問3 あなたが担当している地域で充実している福祉活動は何ですか。(複数選択可)

- | | | |
|--------------|--------------|---------------|
| 1 住民同士の交流 | 2 子育て支援 | 3 高齢者福祉 |
| 4 介護予防 | 5 健康づくり | 6 障害者福祉 |
| 7 認知症の方への支援 | 8 ひとり親家庭への支援 | 9 引きこもりの方への支援 |
| 10 生活困窮者への支援 | 11 青少年の健全育成 | 12 災害対策 |
| 13 防犯対策 | 14 ボランティア活動 | 15 分からない |
| 16 その他(具体的に | |) |

問4 あなたが担当している地域で不足している(今後、充実していく必要がある)福祉活動は何ですか。(複数選択可)

- | | | |
|--------------|--------------|---------------|
| 1 住民同士の交流 | 2 子育て支援 | 3 高齢者福祉 |
| 4 介護予防 | 5 健康づくり | 6 障害者福祉 |
| 7 認知症の方への支援 | 8 ひとり親家庭への支援 | 9 引きこもりの方への支援 |
| 10 生活困窮者への支援 | 11 青少年の健全育成 | 12 災害対策 |
| 13 防犯対策 | 14 ボランティア活動 | 15 分からない |
| 16 その他(具体的に | |) |

問5 あなたが担当している地域の福祉活動について、今後、充実していくためには、何が必要だと思いますか。(複数選択可)

- | | |
|-----------------|----------------------|
| 1 地域での人のつながり | 2 地域のリーダー |
| 3 福祉に関する相談窓口の充実 | 4 福祉に関する研修・人材育成 |
| 5 福祉に関する情報提供の充実 | 6 地域の福祉活動を支援する専門員の充実 |
| 7 関係団体等のネットワーク | 8 活動のための経済的支援 |
| 9 分からない | |
| 10 その他（具体的に | ） |

問6 あなたは、地域の福祉活動を充実するために、どの団体等の連携を強化していく必要があると思いますか。(複数選択可)

- | | |
|----------------------|-----------------------|
| 1 民生委員・児童委員 | 2 町内会・コミュニティ協議会等の地域団体 |
| 3 校区社会福祉協議会 | 4 鹿児島市社会福祉協議会 |
| 5 行政の関係課 | 6 地域福祉館 |
| 7 地域包括支援センター | 8 病院・福祉関連施設 |
| 9 地域福祉支援員 | 10 学校 |
| 11 地域のボランティア団体 | 12 地域の企業・商店街 |
| 13 地域の特定非営利活動法人（NPO） | |
| 14 その他（具体的に | ） |

問7 あなたは、地域の方が抱えている悩みや相談を、誰（どこ）から受けることが多いですか。(複数選択可)

- | | |
|-----------------------|---------------|
| 1 本人・本人の家族 | 2 本人の友人・知人 |
| 3 町内会・コミュニティ協議会等の地域団体 | 4 近所の人 |
| 5 校区社会福祉協議会 | 6 学校 |
| 7 行政の関係課 | 8 鹿児島市社会福祉協議会 |
| 9 地域福祉館 | 10 地域包括支援センター |
| 11 地域福祉支援員 | 12 病院・福祉関連施設 |
| 13 その他（具体的に | ） |

問 8 あなたは、地域の方からの悩みや相談を、何件ぐらい受けていますか。(○は1つだけ)

- | | |
|-------------------|-------------------|
| 1 平均して1か月に10件未満 | 2 平均して1か月に10件～29件 |
| 3 平均して1か月に30件～49件 | 4 平均して1か月に50件以上 |

問 9 あなたが地域の方から受ける福祉に関する相談で、多いものは何ですか。

(複数選択可)

- | | | |
|--------------|---------------|-------------|
| 1 子育て支援 | 2 高齢者福祉 | 3 介護予防 |
| 4 健康づくり | 5 障害者福祉 | 6 認知症の方への支援 |
| 7 ひとり親家庭への支援 | 8 引きこもりの方への支援 | 9 生活困窮者への支援 |
| 10 青少年の健全育成 | 11 災害対策 | 12 防犯対策 |
| 13 ボランティア活動 | 14 児童虐待 | |
| 15 その他(具体的に | |) |

問 10 あなたが地域の方から受ける福祉に関する相談で、解決するのが難しいものは何ですか。

(複数選択可)

- | | | |
|--------------|---------------|-------------|
| 1 子育て支援 | 2 高齢者福祉 | 3 介護予防 |
| 4 健康づくり | 5 障害者福祉 | 6 認知症の方への支援 |
| 7 ひとり親家庭への支援 | 8 引きこもりの方への支援 | 9 生活困窮者への支援 |
| 10 青少年の健全育成 | 11 災害対策 | 12 防犯対策 |
| 13 ボランティア活動 | 14 児童虐待 | |
| 15 その他(具体的に | |) |

問 11 あなたは、地域の方から福祉に関する相談を受けた時、誰に(どこに)相談することが

多いですか。(複数選択可)

- | | |
|-----------------------|---------------|
| 1 家族・親類 | 2 友人・知人 |
| 3 町内会・コミュニティ協議会等の地域団体 | 4 近所の人 |
| 5 校区社会福祉協議会 | 6 学校 |
| 7 行政の関係課 | 8 鹿児島市社会福祉協議会 |
| 9 地域福祉館 | 10 地域包括支援センター |
| 11 地域福祉支援員 | 12 病院・福祉関連施設 |
| 13 その他(具体的に |) |

(複数選択可)

- 問13 その他、福祉全般について、ご意見がありましたらお書きください。

[illegible]

各地区の会長さんは、全員分を回収後、令和2年10月19日（月）までに、民児協事務局にご提出をお願いいたします。